令和 **8** 年度

琉 球 大 学 病 院

初期臨床研修プログラム



琉球大学病院の理念及び基本方針

理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、 地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。

基本方針

- 1)生命の尊厳を重んじた人間性豊かな医療の実践
- 2)地域の医療・保健・福祉に対する貢献
- 3) 専門性及び国際性を備える優れた医療人の育成
- 4) 先端医療技術の開発・応用・評価
- 5) 働きやすくやりがいのある職場環境の整備

目 次

琉球大学病院の理念及び基本方針	1
RyuMIC及びRyuMICプログラム	
RyuMIC (琉大) プログラムの目的と特徴	
RyuMIC (琉大) プログラムの管理運営組織と責任者	
研修プログラムの名称と実施要項	2
研修プログラムの実際	3
指導医と指導体制	
研修の評価と修了認定の要件	
研修医の処遇	
研修環境	
研修修了後の進路等	5
問い合わせ先	
第一	
第二章 臨床研修の目標、方略及び評価	7
I 到達目標	
Ⅱ 実務研修の方略	
Ⅲ 到達目標の達成度評価	11
第三章 RyuMIC(琉大)プログラムの概要	
RyuMICプログラムA	13
RyuMICプログラムB	
RyuMICプログラムC	
協力病院一覧	
第四章 琉球大学病院 診療科の概要	
感染症・呼吸器・消化器内科(第一内科)	21
内分泌代謝・血液・膠原病リウマチ科(第二内科)	22
循環器・腎臓・神経内科(第三内科)	
消化器・乳腺内分泌・小児外科(第一外科)	
心臓血管・呼吸器外科(第二外科)	
救急科	
麻酔科	
小児科	
産科婦人科	29
精神科神経科	30
整形外科	31
脳神経外科	32
腎泌尿器外科	33
形成外科	34
皮膚科	
耳鼻咽喉・頭頸部外科	
眼科	37
放射線科	38
病理診断科	39
リハビリテーション科	40

第五章 協力型臨床研修病院の概要

日本赤十字社 沖縄赤十字病院	41
地方独立行政法人 那覇市立病院	
公益社団法人 北部地区医師会 北部地区医師会病院	
沖縄県立北部病院	44
沖縄県立中部病院	
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	
沖縄県立宮古病院	47
社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	48
社会医療法人 敬愛会 中頭病院	49
社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院	50
社会医療法人 友愛会 友愛医療センター	51
医療法人 おもと会 大浜第一病院	52
医療法人 沖縄徳洲会 中部徳洲会病院	53
医療法人 沖縄徳洲会 南部徳洲会病院	54
旭川医科大学病院	55
公益財団法人 がん研究会 有明病院	56
医療法人 晴明会 糸満晴明病院	57
独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院	58
沖縄県立精和病院	59
医療法人 和の会 与那原中央病院	60
第六章 地域医療 保健・医療行政 研修/共通研修カリキュラム	
地域医療 保健・医療行政	61
レクチャー・シミュレーションスキル・プライマリスキル	63
ケースカンファレンス・教育CPC	63

第1章 RyuMICプログラムの概要

■RyuMIC 及び RyuMICプログラム

RyuMICとは、沖縄県における唯一の医師養成機関であり地域医療における中核病院である琉球大学病院、他の基幹型臨床研修病院(以下「基幹病院」とする。)、協力型臨床研修病院(以下「協力病院」とする。)及び臨床研修協力施設(以下「協力施設」とする。)が各々の特徴を生かしつつ相互に連携を図ることによって、よりよい臨床研修を実現するために形成された臨床研修グループであり、RyuMICプログラムとは、琉球大学病院を含む各基幹病院の有する臨床研修プログラムの総称である。

RyuMICでは、共通の教育・研修理念に基づくRyuMICプログラムに沿って相互に協力しつつ、各基幹病院で採用された研修医の臨床研修が実施される。

RyuMICは、協力病院・協力施設間の相互関係を基軸とした集まりでありながらも、単に一つの研修プログラムを共有する臨床研修病院群ではない。基本的な研修カリキュラムや評価方法を共に開発し、様々な臨床研修の課題について共に検討・解決し、常に各々の病院における研修プログラムを改善することで発展・向上していくことを目指す相互協力システムである。

RyuMICのコンセプト

Ryukyu Medical Interactive Collaboration (RyuMIC)

私たちが目指すもの、それは・・・

- ・Ryukyu → 地域を愛し、地域を見つめながら
- ・Medical → 質の高い医療と豊かな教育環境で
- ・Interactive → 大学病院・一般病院・診療所等の緊密な双方向の連携のもと、
- ・Collaboration → 研修医・指導医・病院が相互に協力し、共に学び

幅広いステージで活躍できる「感性豊かな優れた医師」を育み、質の高い医療の実現に貢献する

■RyuMIC (琉大) プログラムの目的と特徴

【目的】

琉球大学病院初期臨床研修プログラム(以下「RyuMIC(琉大)プログラム」とする。)においては、社会に 貢献する医師を養成すべく、琉球大学病院と地域における第一線の協力病院及び協力施設との連携を綿密に 図り、相互に個々の病院の個性や特徴を生かしつつ、「医師として必要な基本的臨床能力(プライマリ・ケア)を身につけ、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

教育に通じた熱意のある指導医のもと、日常診療で頻繁に遭遇する疾患についての基本的臨床能力(知識、技能、態度)の修得とともに、医師としての人格を涵養し、時代の要請や社会のニーズに応えられる医師の養成を目指す。また、科学的根拠に基づいた医療を学ぶことにより、専門臨床研修へのステップとする。

【特 徴】

- ・琉球大学病院と地域の中核を担う基幹病院、協力病院及び協力施設との綿密な連携
- ・すべての研修医が一次医療機関から三次医療機関での医療を体験(プライマリ・ケアから専門医療まで)
- ・多くの協力病院及び協力施設による多様な研修
- ・公平かつ一貫した質の高い臨床研修
- ・様々な基本的診療能力(プライマリ・ケア)の効率的で総合的な臨床研修
- ・二次医療機関での研修を加え、救急疾患やcommon diseasesへの対応を強化
- ・On the job training (OJT) の実践研修
- ・充実した地域医療プログラム:離島診療所や家庭医学(family medicine)を実践する協力病院及び協力 施設での研修が可能
- ・地域での研修中も専門家が集う大学病院へのコンサルトが可能
- ・希望の診療科へのローテーションが可能な「選択」期間の設置
- ・診療科にとらわれない共通研修カリキュラムの設置
- ・教育経験豊富な、充実した教育スタッフ
- ・教員、指導医、及び若手医師の屋根瓦方式による教育指導体制
- ・チューター制度及びメンタルヘルスサポーター設置による研修医の支援と相談体制の充実
- ・設備の充実した研修医室

■RyuMIC(琉大)プログラムの管理運営組織と責任者

RyuMIC (琉大) プログラムによる臨床研修の最終責任者は、琉球大学病院長であり、研修修了の認定は病院長が行う。

RyuMIC(琉大)プログラムを統括・管理し、実効のある研修を実施するため、本病院に研修管理委員会を 設置している。また、実際の研修計画の策定及び円滑な実施、カリキュラム管理、研修医のサポートを行う ため、琉球大学病院長の下に総合臨床研修・教育センターを設置している。

【琉球大学病院研修管理委員会】(琉球大学病院研修管理委員会規程より)

琉球大学病院に、初期臨床研修を統括し、円滑に実施するため、研修管理委員会を置く。

構成員

- ·病院長(委員長)
- ・副病院長
- ・臨床研修センター長(副委員長)
- ・臨床研修センター 医科部門長
- ・研修プログラム責任者
- ・臨床研修センター 医科部門員
- ・研修協力病院における研修実施責任者
- ・研修協力施設における研修実施責任者
- ・事務部長
- ・その他病院長が必要と認める者

所掌事項

- ・研修プログラムに係る基本方針の決定に関すること。
- ・研修プログラムの実施に係る総合的な調整に関すること。
- ・研修医の採用及び処遇等に係る総合的な調整に関すること。
 - ・他施設への出向/研修医の研修継続の可否/研修医の処遇/研修医の健康管理
- ・研修医の研修の評価に関すること。
 - →研修目標の達成状況の評価/臨床研修における評価(修了時・中断時)
- ・その他臨床研修及び研修医に関する重要事項
 - →研修後及び中断後の進路に関する支援

■研修プログラムの名称と実施要項

RyuMICプログラムA

募集定員:1年次19名、2年次-名

プログラム責任者 梅村 武寬(ウメムラ タケヒロ) 副プログラム責任者 原永 修作(ハラナガ シュウサク)

奥村 耕一郎 (オクムラ コウイチロウ)

武村 克哉 (タケムラ カツヤ)

大内元(オオウチゲン)

RyuMICプログラムB

募集定員:1年次2名、2年次-名

プログラム責任者 浜田 和弥 (ハマダ カズヤ) 副プログラム責任者 兼次 拓也 (カネシ タクヤ)

RyuMICプログラムC

募集定員:1年次2名、2年次-名

プログラム責任者 金城 忠嗣(キンジョウ タダツグ) 副プログラム責任者 原永 修作(ハラナガ シュウサク)

各プログラムに関する照会、資料請求先(住所及び担当部門等)

〒901-2725 沖縄県宜野湾市字喜友名1076番地 琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター

T E L : 098-894-1391, 098-894-1392 F A X : 098-894-1388

E-mail: kensyu@acs.u-ryukyu.ac.jp URL: https://www.sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/

<u>募集方法</u> 公募

応募必要書類	選考試験願書、成績証明書、自己アピール文
選考方法	面接により行う
募集及び選考の時期	募集時期(6月1日頃から)、選考時期(8月上旬頃から)
マッチングの利用の有無	有

■研修プログラムの実際

オリエンテーション

自由選択コースでは、他大学出身者を含めて研修を円滑に実施できるよう、医師として仕事を始めるためのオリエンテーションとインフォームドコンセント、チーム医療、保健医療、院内感染対策、医療事故防止など、医療を行うために必要な基本事項を学ぶ。(1週間)

地域連携コースでは、各たすき掛け研修先でオリエンテーションを行う。

共通研修(全期間を通じて): p.63参照

ローテーション研修では、研修が困難な内容を学ぶ目的で、研修医全員が共通研修カリキュラム(レクチャーやプライマリスキル等)に参加する。研修医を受け入れている各診療科は、研修医が共通研修に参加できるよう配慮する。

ローテーション研修

各プログラムのローテーション例を参考に、2年間で必修科、選択科を組み合わせて研修を行う。

■指導医と指導体制

研修医は研修期間中、琉球大学病院 総合臨床研修・教育センターに所属する。

指導体制

- ・診療科(部)長:各診療科での研修における管理運営を行い、全体の責任を持つ。
- ・研修指導責任者:診療現場での研修を統括し、その全般の責任を負う。
- ・研 修 指 導 医:研修医が受け持つ患者の診療に直接参加し、研修医の診療場面での責任を担う。
- ・研修は、屋根瓦方式で行われる。

研修指導医

- ・7年以上の臨床経験を有し、プライマリ・ケアの指導が可能であり、医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針に準じて行われる指導医養成セミナー(又はそれに相当する講習会等)を受講した常勤の医師がこれにあたる。
- ・臨床研修事項に関しては診療科(部)長の了承のもとに研修指導医が決定する。診療上の最終責任は診療科 (部)長が負う。
- ・研修は研修指導医、研修医が診療チームを構成して行う。

■研修の評価と修了認定の要件

研修医による自己評価

研修報告	ローテーションごとにオンライン臨床研修評価システムPG-EPOCを用いて報告する。
経験した手技、	ローテーションごとに経験した手技、症状・病態・疾患についてオンライン臨床研修評
症状・病態・疾患	価システムPG-EPOCを用いて報告する。また、レポートの提出が必要な経験目標もある。
研修目標の	初期研修終了時にオンライン臨床研修評価システムPG-EPOC又は、研修記録を用いて報
達成度の評価	告する。

指導医・看護師・医療従事者からの評価

ローテーションごとにオンライン臨床研修評価システムPG-EPOCを用いて評価する。

共通研修の評価

十分な出席回数であることが必須である。

修了判定に必要な書類

- ・血液型判定講習
- ・感染対策
- ・虐待への対応
- ・予防医療
- · 社会復帰支援
- ・アドバンス・ケア・プランニング (ACP)

・緩和ケア講習会 修了証書

- ・地域医療研修レポート
- ・CPCレポート
- ・剖検依頼・報告書

(主治医として受け持った症例がある場合)

形成的評価

少なくとも半年に一回は形成的評価を行う、評価時点で研修医が経験していない症候や疾病・病態に関する確認を実施する。

総合評価及び修了証の交付

- ・経験すべき症候、疾病・病態について、必須項目のすべてを経験したもののみ修了判定を行う。
- ・研修管理委員会が、2年の研修終了時にレポート、各種研修受講状況、PG-EPOCの自己・指導医・看護師・ 医療従事者からの評価を合わせて修了判定を行う。必要に応じて、面接による評価も行う。
- ・修了と認定された者に対して研修修了認定証を交付する。

指導体制・研修施設・研修プログラムの評価

各診療科の研修終了後に、指導体制・研修プログラムに関して、研修医からの評価を評価票により行い、 指導医からの意見を併せて、翌年からの研修プログラムや指導体制の改善に用いる。

■研修医の処遇

研修期間は原則として2年間とし、研修場所及び研修業務については、あらかじめ決定した研修プログラムによるものとする。詳細は各診療科の研修方針に従う。研修医によるアルバイトは原則として禁止する。

雇用の形態	非常勤(琉球大学病院 医員(研修医))
給与・研修手当	基本手当/月 363,000円(※22日勤務の場合)
	・基本給(日給)日額 9,500円
	・臨床研修手当 日額 7,000円
勤務時間・休日	勤務時間 8:30~17:15、休憩時間 原則12:00~13:00
	時間外勤務有り
	休 日 土日祝日、12月29日~1月3日
休暇等制度	採用日より10日の年次有給休暇を付与(条件有)
	翌年度は4月1日に11日の年次有給休暇を付与(条件有)
	※その他、病気休暇、忌引き、産前産後休暇、リフレッシュ休暇等の
	各種有給休暇制度及び休業制度(育児休業、介護休業 等)あり
当直	当直なし
救急準夜勤	準夜勤 約2~4回/月 ※別途手当支給
宿舎	無(住宅手当:無)
研修医室	有(総合臨床研修・教育センターに仮眠室・シャワー室・個人の机有)
社会保険	完備(文部科学省共済組合、厚生年金保険、雇用保険、労災保険)
具体的に適用される就業規則名	国立大学法人琉球大学医学部・病院非常勤職員就業規則
健康管理、他健康診断	1~2回/年(特定業務従事者は2回)
医師賠償責任保険の扱い	国立大学附属病院損害賠償責任保険加入
	個人加入必須
外部の研修活動	学会、研究会等への参加は可。一部、補助あり(条件有)

■研修環境

本院では、以下のとおり臨床研修に必要な諸施設を備えている。

- ・総合臨床研修・教育センター事務室があり、臨床研修に係る諸事務手続きや連絡に関するサポートを受けることができる。
- ・総合臨床研修・教育センターに研修担当医を配置し、研修評価に基づいたアドバイスやローテーション選 択に関するアドバイスを受けることができる。
- ・全科共通の研修医室が用意されている。電子カルテ、個人用机、ロッカー、メールボックス、仮眠室、シャワー室等が設置されている。
- ・臨床研修時の情報収集や勉学に関し、図書・雑誌等が附属図書館(医学部分館)や各科医局・病棟に豊富 に揃えられているのみならず、インターネット環境が整備され、各種文献データベース検索、教育用コン テンツ、PMET (医療研修推進財団)の医療研修情報サービスの利用が可能である。
- ・各ローテート先にチューターを配置し、医療以外の個人的な生活上の相談等について応じるサポート体制 を用意している。
- ・研修医のメンタルヘルス上の相談に応じるため、専門医(精神科)をメンタルヘルスサポーターとして設置している。

■研修修了後の進路等

- ・臨床研修修了後は、琉球大学医学部、琉球大学病院又は連携施設において、専門分野での専門研修(後期 研修)が行え、臨床研修から連続したキャリアアップを目指すことができる。また、琉球大学大学院医学 研究科へ進学することもできる。
- ・臨床研修後の進路について、チューターや各診療科から情報を得ることができるだけでなく、進路に関する説明会などが随時開催され、自分にあった進路を決定することができる。

■問い合わせ先

本院の研修プログラムによる臨床研修に関する問い合わせは、以下のとおりである。

照会先:琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター

住 所:〒901-2725 沖縄県宜野湾市喜友名1076番地

TEL: 098-894-1391, 098-894-1392

FAX: 098-894-1388

E-mail: kensyu@acs.u-ryukyu.ac.jp

URL: https://www.sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/

第2章

臨床研修の目標、方略及び評価

参考

医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令 医師臨床研修ガイドライン -2024年度版 -

https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001238728.pdf https://www.mhlw.go.jp/content/001364766.pdf

臨床研修の基本理念 (医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令)

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、 医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関 わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのでき るものでなければならない。

臨床研修の到達目標、方略及び評価

(厚生労働省HP参考 https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000341137.pdf)

T 到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性 を深く認識し、医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)及び医師として の使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成 の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベ ルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

- 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
 - 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公 正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
- 2. 利他的な態度
 - 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重す る。
- 3. 人間性の尊重
 - 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接 する。
- 4. 自らを高める姿勢
 - 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの 健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の 発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成に も携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。)を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応 急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に 関わる種々の施設や組織と連携できる。

Ⅱ 実務研修の方略

研修期間

研修期間は原則として2年間以上とする。

協力型臨床研修病院又は臨床研修協力施設と共同して臨床研修を行う場合にあっては、原則として、1年以上は基幹型臨床研修病院で研修を行う。なお、地域医療等における研修期間を、12週を上限として、基幹型臨床研修病院で研修を行ったものとみなすことができる。

臨床研修を行う分野・診療科

- ① 内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療を必修分野とする。また、一般外来での研修を含めること。
- ② 原則として、内科24週以上、救急12週以上、外科、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療 それぞれ4週以上の研修を行う。なお、外科、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療については、8週以上の研修を行うことが望ましい。
- ③ 原則として、各分野では一定のまとまった期間に研修(ブロック研修)を行うことを基本とする。ただし、救急について、4週以上のまとまった期間に研修を行った上で、週1回の研修を通年で実施するなど特定の期間一定の頻度により行う研修(並行研修)を行うことも可能である。なお、特定の必修分野を研修中に、救急の並行研修を行う場合、その日数は当該特定の必修分野の研修期間には含めないこととする。
- ④ 内科については、入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる 症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。
- ⑤ 外科については、一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技 の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う 病棟研修を含むこと。
- ⑥ 小児科については、小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各 発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟 研修を含むこと。
- ⑦ 産婦人科については、妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学 的対応などを含む一般診療において、頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得す るために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う病棟研修を含むこと。
- ⑧ 精神科については、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応 するために、精神科専門外来又は精神科リエゾンチームでの研修を含むこと。なお、急性 期入院患者の診療を行うことが望ましい。
- ⑨ 救急については、頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対する初期救急対応の研修を含むこと。また、麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。麻酔科を研修する場合には、気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法についての研修を含むこと。
- ① 一般外来での研修については、ブロック研修又は、並行研修により、4週以上の研修を行うこと。なお、受け入れ状況に配慮しつつ、8週以上の研修を行うことが望ましい。また、症候・病態については適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患の継続診療を含む研修を行うことが必須事項である。例えば、総合診療、一般内科、一般外科、小児科、地域医療等における研修が想定され、特定の症候や疾病のみを診察する専門外来や、慢性疾患患者の継続診療を行わない救急外来、予防接種や健診・検診などの特定の診療のみを目的とした外来は含まれない。一般外来研修においては、他の必修分野等との同時研修を行うことも可能である。
- ① 地域医療については、原則として、2年次に行うこと。また、へき地・離島の医療機関、許可病床数が200床未満の病院又は診療所を適宜選択して研修を行うこと。さらに、研修内容としては以下に留意すること。
 - 1) 一般外来での研修と在宅医療の研修を含めること。ただし、地域医療以外で在宅医療 の研修を行う場合に限り、必ずしも在宅医療の研修を行う必要はない。
 - 2) 病棟研修を行う場合は慢性期・回復期病棟での研修を含めること。

- 3) 医療・介護・保健・福祉に係わる種々の施設や組織との連携を含む、地域包括ケアの 実際について学ぶ機会を十分に含めること。
- ② 選択研修として、保健・医療行政の研修を行う場合、研修施設としては、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、健診・検診の実施施設、国際機関、行政機関、矯正機関、産業保健の事業場等が考えられる。
- ③ 全研修期間を通じて、感染対策(院内感染や性感染症等)、予防医療(予防接種等)、虐 待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP・人生会議)、臨床病理検討会(CPC)等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を含むこと。また、診療領域・職種横断的なチーム(感染制御、緩和ケア、栄養サポート、認知症ケア、退院支援等)の活動に参加することや、児童・思春期精神科領域(発達障害等)、薬剤耐性、ゲノム医療等、社会的要請の強い分野・領域等に関する研修を含むことが望ましい。

経験すべき症候-29症候-

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見 に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

経験すべき疾病・病態-26疾病・病態-

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆 石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、 うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常診療において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むこと。

Ⅲ 到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、 研修医に対して形成的評価(フィードバック)を行う。

2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

第3章 RyuMIC(琉大)プログラムの概要

RyuMICプログラムA RyuMICプログラムB RyuMICプログラムC

RyuMICプログラムA

目的と特徴

【目的】

「医師として必要な基本的臨床能力 (プライマリ・ケア) を身につけ、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

【特徴】

プログラムAは研修医の多様なニーズを考慮し、協力病院と連携した研修を可能とするプログラムで以下の2つのコースからなる。

自由選択コース: 2年のうち琉球大学病院で1年以上、残りを協力病院から複数選択し研修を行う 地域連携コース: 1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院で研修を行う、たすき掛け研修

コース選択

自由選択コース

p.19「協力病院一覧」を基に、琉球大学病院と協力病院から研修先と診療科を選択し、ローテーション研修を行う。ただし、1年以上は琉球大学病院で研修しなければならない。

地域連携コース

下記協力病院から1施設選択し、1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院でローテーション研修を行う。

友愛医療センター

[協力病院]

沖縄赤十字病院沖縄県立宮古病院那覇市立病院中頭病院沖縄県立北部病院浦添総合病院沖縄県立中部病院ハートライフ病院

必修科・病院で定めた必修科・選択科研修

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

必修科(56週)	
内科 24週	12週以上は、必ず1年目で研修を行う。
救急部門 12週	8週以上は、必ず1年目で研修を行う。
	麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。
外科 4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科での研修が対象となる。
小児科 4週	
産婦人科 4週	
精神科 4週	
地域医療 4週	一般外来研修、在宅医療研修を並行して実施する。
(2年目に研修)	12週までを上限とし、本院での研修とみなすことができる。
病院で定めた必修	科(4週)
外科 4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科・整形外科・脳神経外科での研修が対象となる。
選択科 (44调)	

一般外来研修は、地域医療研修の他、院内外の総合診療・内科・外科・小児科における<u>一般外来</u>でも 研修可能である。

琉球大学病院における研修医の処遇

p.5 ■研修医の処遇参照

ローテーションの原則

- 1) プログラムに沿ったローテーション研修及び共通研修を実施する。
- 2) 研修期間は、研修医は非入局で研修を行う。
- 3) 研修医は、臨床研修における到達目標を達成するために、研修開始前に総合臨床研修・教育センターにローテーション先の希望を提出する。総合臨床研修・教育センターが各診療科・協力病院と調整後に研修コースを確定する。
- 4) 2年間(104週)の研修期間のうち1年以上は本院で研修を行う。

ローテーション例

<原型>

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年目			内	科				救急		外科	小児	産婦	精神
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年目	外科	地域						選択					

<例>

自由選択コース

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年		内科			救急科		小児	産婦	精神	内科			外科
目	琉球大学病院						琉	求大学病	院	協力病院			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
 年	選択地		外科										
目	琉球大学病院 域		域	琉大	病院		協力	病院		琉球大学病院			

地域連携コース

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年			内		外科 選択			択						
目	たすき掛け研修先													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年	小児	産婦	地	精神		•	選択							
目	琉球大	学病院	域		琉球大学病院									

RyuMICプログラムB

目的と特徴

【目的】

「医師として必要な基本的臨床能力(プライマリ・ケア)を身につける中で、特に小児科の研修に 重点をおき、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

【特徴】

プログラムBは研修医の多様なニーズを考慮しつつ、小児科の研修期間を十分確保できるように、琉球大学病院と協力病院での研修が可能なプログラムで以下の2つのコースからなる。

自由選択コース: 2年のうち琉球大学病院で1年以上、残りを協力病院から複数選択し研修を行う 地域連携コース: 1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院で研修を行う、たすき掛け研修

コース選択

自由選択コース

p.19「協力病院一覧」を基に、琉球大学病院と協力病院から研修先と診療科を選択し、ローテーション研修を行う。ただし、1年以上は琉球大学病院で研修しなければならない。

地域連携コース

下記協力病院から1施設選択し、1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院でローテーション研修を行う。

[協力病院]

<小児重点>

那覇市立病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

ハートライフ病院

友愛医療センター

必修科・病院で定めた必修科・選択科研修

业	公修科(64週)	
	内科 24週	! 12週以上は、必ず1年目で研修を行う。
	救急部門 12週	! 8週以上は、必ず1年目で研修を行う。
		麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。
	外科 4週	! □ 琉球大学病院では、第一外科・第二外科での研修が対象となる。
	小児科 12週	
	産婦人科 4週	
	精神科 4週	
	地域医療 4週	一般外来研修、在宅医療研修を並行して実施する。
	(2年目に研修)	12週までを上限とし、本院での研修とみなすことができる。
痄	病院で定めた必何	§科(4週)
	外科 4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科・整形外科・脳神経外科での研修が対象となる。
逞	選択科 (36週)	

一般外来研修は、地域医療研修の他、院内外の総合診療・内科・外科・小児科における<u>一般外来</u>でも 研修可能である。

琉球大学病院における研修医の処遇

p.5 ■研修医の処遇参照

ローテーションの原則

- 1) プログラムに沿ったローテーション研修及び共通研修を実施する。
- 2) 研修期間は、研修医は非入局で研修を行う。
- 3) 研修医は、臨床研修における到達目標を達成するために、研修開始前に総合臨床研修・教育センターにローテーション先の希望を提出する。総合臨床研修・教育センターが各診療科・協力病院と調整後にローテーション研修を確定する。
- 4) 2年間(104週)の研修期間のうち1年以上は本院で研修を行う。

ローテーション例

<原型>

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年目			内	科				救急		外科	小児	産婦	精神
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年目	外科 小児 地域					選択							

<例>

自由選択コース

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年		内科		外	科	産婦	内科 小児				救急科		
目	琉球大学病院									協力病院			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年	選択 小		児	精神	地	選択							
目	協力病院 琉球			求大学病	院	域			琉	求大学病	院		

地域連携コース

	·													
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年		内科			救急 内科				外	科	産婦	小児		
目					たすき掛け研修先									
٥	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年	精神	小	児	地域	選択									
目	琉球大学病院			域				琉	求大学病	院				

RyuMICプログラムC

目的と特徴

【目的】

「医師として必要な基本的臨床能力(プライマリ・ケア)を身につける中で、特に産婦人科の研修 に重点をおき、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

【特徴】

プログラムCは研修医の多様なニーズを考慮しつつ、産婦人科の研修期間を十分確保できるように、 琉球大学病院と協力病院での研修が可能なプログラムで以下の2つのコースからなる。

自由選択コース: 2年のうち琉球大学病院で1年以上、残りを協力病院から複数選択し研修を行う 地域連携コース: 1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院で研修を行う、たすき掛け研修

コース選択

自由選択コース

p.19「協力病院一覧」を基に、琉球大学病院と協力病院から研修先と診療科を選択し、ローテーション研修を行う。ただし、1年以上は琉球大学病院で研修しなければならない。

地域連携コース

下記協力病院から1施設選択し、1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院でローテーション研修を行う。

[協力病院]

<周産期重点>

沖縄赤十字病院

那覇市立病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

必修科・病院で定めた必修科・選択科研修

必修科(64週)	
内科 24週	12週以上は、必ず1年目で研修を行う。
救急部門 12週	8週以上は、必ず1年目で研修を行う。
	麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。
外科 4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科での研修が対象となる。
小児科 4週	
産婦人科 12週	
精神科 4週	
地域医療 4週	一般外来研修、在宅医療研修を並行して実施する。
(2年目に研修)	12週までを上限とし、本院での研修とみなすことができる。
病院で定めた必修	科(4週)
外科 4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科・整形外科・脳神経外科での研修が対象となる。
選択科 (36週)	

一般外来研修は、地域医療研修の他、院内外の総合診療・内科・外科・小児科における<u>一般外来</u>でも研修可能である。

琉球大学病院における研修医の処遇

p.5 ■研修医の処遇参照

ローテーションの原則

- 1) プログラムに沿ったローテーション研修及び共通研修を実施する。
- 2) 研修期間は、研修医は非入局で研修を行う。
- 3) 研修医は、臨床研修における到達目標を達成するために、研修開始前に総合臨床研修・教育センターにローテーション先の希望を提出する。総合臨床研修・教育センターが各診療科・協力病院と調整後にローテーション研修を確定する。
- 4) 2年間(104週)の研修期間のうち1年以上は本院で研修を行う。

ローテーション例

<原型>

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年目			内	科				救急		外科	小児	産婦	精神
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年目	外科	産	婦	地域					選択				

<例>

自由選択コース

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年		内科		外	科	産婦		内科		小児	救急科			
目					琉球大	学病院					1	劦力病 院	t	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年	選択 産			婦	精神	地				選択				
目	協力	病院	琉珠	球大学病	院	域			琉珠	求大学病	院			

地域連携コース

	• •												
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年		内科			救急		内科			外	科	産婦	小児
目 たすき掛け研修先													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年	精神	産	婦	地					選択				
目	琉	求大学病	院	域				琉	求大学病	院			

協力病院一覧

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病	IJ		
						婦		形	神	泌	成		鼻		射	理	Λ		
			急	酔	児	, up	神		経	尿器		膚	咽			診	ビ		
						人		外	外	外	外		喉		線	断	IJ		
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	備	考
琉球大学病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
沖縄赤十字病院	0	0	0	0		0		0		0									
那覇市立病院	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
北部地区医師会病院	0	0	0	0				0				*				0	I\	※p. 43参照	
沖縄県立北部病院	0	0	0		0	0		0								0]\		
沖縄県立中部病院	0	0	0	0	0	0		0	0	*	*		0		0	*	$ \rangle $	※p. 45参照	
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	\mathbb{N}		
沖縄県立宮古病院	0	0	0	0	0	0	0	0		0				0			$1 \setminus I$		
浦添総合病院	0	0	0	0				0	0	0	0		*		*	0	$\square \square$	※p. 48参照	
中頭病院	0	0	0	0	*			0	*	*	*		*	*		0	ΙV	※p. 49参照	
ハートライフ病院	0	0	0	0	0	0		0		0	*		0	0	0	0	1 (※p. 50参照	
友愛医療センター	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0		0			0	I /\		
大浜第一病院	0	0	0	0				0	0								Ш		
中部徳洲会病院	0	0	0	0	0			0	0	0					0		M		
南部徳洲会病院	0	0	0	0		0		0		0					0		$H \setminus V$		
旭川医科大学病院	0																۱/ ۱		
有明病院	0	0	*	0				0		0	0				0		1/	※p. 56参照	
沖縄病院	0	0														0	1/		
糸満晴明病院							0										1		
沖縄県立精和病院							0										1		
与那原中央病院	0	0						*										※p. 60参照	

病院の都合により研修受入れが難しい場合があります。

地域医療研修先については、p.62 を参照してください。

第4章 <u>琉球大学病院</u>診療科の概要

第一 内 科 小 児 科 第 産科婦人科 内 科 三 第 内 科 精神科神経科 第 一 外 形外科 科 整 第 二外 脳神経外科 科 急 救 腎泌尿器外科 科 形成外科 麻 科 酔

皮耳鼻咽喉科以外以外皮屑喉科科科科科科科財財財<

感染症・呼吸器・消化器 内科(第一内科)

\mathbf{V}	必修科
	病院で定めた必修科
\mathbf{V}	選択科

診療科(部)長	山本 和子
研修指導責任者	伊良波 淳
指 導 医 数	13 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	8~15名(新患1~3名/週)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	グループ診療を行っており、教員、指導医、若手医師、研修医、実習学生を交えての屋根瓦方式の指導体制を取る。指導責任者は正副医局長が担当し、研修の到達度評価を行う。 研修医は主治医または副主治医となり、グループ内の複数の指導医がそれをサポートする。さらに、1年目研修医や実習学生の指導や相談に乗りながら、自身の知識や技術の確認を行う。
検査・治療の指導体制	1年目は必修科研修での検査や治療を経験し、指導をうける。 2年目は1年目に習得した検査・治療法の再確認を中心に、さらに1年目で習得 できなかった項目を学ぶ。それらに加え、各専門領域における検査や治療に関する 研修を指導医のもとで行う。
緊急時の対応について	勤務時間帯は指導医の監督の下に研修医が診療に当たる。夜間及び休日は当直医が対応する。教育性の高い対応の際は研修医に連絡し、来院可能であれば当直医あるいは指導医とともに対応に当たる。
研修 回診・検査・手術等	・入院受け持ち患者の診療(毎日。必要に応じて、夜間・休日も) ・カルテの記載:指導医とのディスカッションを受けて ・総回診(週1回)や毎日のグループ回診における受け持ち患者についての提示 ・検査及び手技:採血(静脈、動脈)、末梢ライン確保、心電図検査、各種検体の グラム染色・抗酸菌染色、血液培養などの基本的検査や手技は、自ら主体的に行 う。侵襲を伴う検査手技あるいは専門的検査手技は、指導医の指導の下で自らある いは助手として参加する。 ・屋根瓦方式の教育方針に則り、指導医とともに1年目研修医および実習学生の指 導や相談にのる。「教えることは学ぶこと」を自らも実践する。 ・退院サマリー:患者の退院に際しては、報告書やサマリーの作成を必ず行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	週にそれぞれ1回。専門グループ別のもの(呼吸器合同カンファレンス、消化器 合同カンファレンス)も適宜行われる。
学会及び研究会	興味ある症例の担当となった場合、指導医と相談の上、学術集会や研究会で報告することもできる。
その他	【研修期間】 希望する研修期間に呼吸器、消化器のいずれか、もしくは両グループを選択して 研修を行う(感染症は両グループに含まれる)。必修科研修でのローテーションで は、原則として3か月間にそれぞれのグループで1.5か月ずつの研修を行う。
週のスケジュール(回診	・オペ 笔)

午	月 8:30~朝カンファ 9:00~病棟対応 腹部エコー検査	火 8:30~朝カンファ 9:00~病棟対応 上部内視鏡検査	水 8:00~呼吸器カンファ 8:30~各グループ回診 9:00~病棟対応	木 8:00消化器カンファ 8:30~各グループ回診 9:00~病棟対応	金 8:30~朝カンファ 9:00~病棟対応 上部内視鏡検査
·前 	上部内視鏡検査		気管支鏡検査	上部内視鏡検査 特殊内視鏡検査・治療	気管支鏡検査
午後	14:00~教授回診 18:00~呼吸器合同かファ (毎月第2/4週)	12:30〜勉強会 (隔月交互) 13:30〜病棟対応 内視鏡特殊検査 16:00〜気管支鏡カンファ	13:30〜病棟対応 下部内視鏡検査 特殊内視鏡検査	12:30〜勉強会 (隔月交互) 13:30〜病棟対応 下部内視鏡検査・治療 特殊内視鏡検査・治療 16:00〜感染症カンファ	13:30~病棟対応 下部内視鏡検査

内分泌代謝・血液・膠原病 リウマチ科(第二内科)

\square	必修科
	病院で定めた必修科
	選択科

診療科(部)長	
研修指導責任者	
指導医数	※内分泌代謝・糖尿病、血液、膠原病・リウマチの3つのグループがある。 9 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	6~12 名(うち新患 1~4名/週)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	グループ診療を行っている。1年目研修医、2年目研修医、指導医、教員が、臨床実習学生を屋根瓦式の指導体制をとる。 具体的には、2年目研修医は主治医となり、グループ内の複数の指導医がサポートする。助教や医員は専任指導医となり、2年目研修医の直接の指導を行う。 研修指導責任者は、到達度チェックを行う。2年目研修医は、専門コンサルタントチームの一員として、1年目研修医への指示や指導も行う。さらに、臨床実習学生の指導や相談に乗ることで、自身の知識や技術の確認を行う。
検査・治療の指導体制	1年目の必修期間に行う。その際に十分習得できていない項目や専門的な検査・ 治療に関する研修を、グループ内の医員及び助教の指導で学ぶ。
緊急時の対応について	勤務時間帯は指導医の監督の下に研修医が診療に当たる。夜間及び休日は当直医が対応し、必要に応じて研修医を呼び出す。
研修 回診・検査・手術等	・入院受け持ち患者の診療(毎日、夜間や休日も) ・カルテの記載:指導医にチェックを受けること。 ・指導医紹介、看護師紹介 ・病棟週間スケジュール紹介 ・病棟配置(病室、検査機器、物品、その他) ・1年目研修医指導について ・学生教育について ・グループ回診及び総回診(週1回)における受け持ち患者の提示。 ・検査及び手技:採血(静脈、動脈)、検尿検査、心電図検査をはじめ基本的検査 や手技は自ら主体的に行う。専門的検査及び手技は、助手として参加し、ときには 指導医の指導のもとに実施する。 ・退院サマリー:患者の退院に際しては、報告書やサマリーの作成を行う。 ・学生の指導
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	週にそれぞれ1回。専門グループ別のもの(整形外科合同カンファレンス、放射線科・耳鼻科合同カンファレンス、病理カンファレンス)も適宜行われる。
学会及び研究会	興味ある症例の担当となった場合、学術集会や研究会で報告する。
その他	【研修期間】 内分泌代謝・糖尿病、血液、膠原病・リウマチのいずれかまたは複数のグループ を選択する。必修科研修でのローテーションでは、原則として3か月間または2か 月間で研修を行う。

	月	火	水	木	金
午前	9:00〜 医局会 新入院カンファ	(血)朝回診 (内代)朝回診 外来	(血)朝回診 (内代)朝回診 外来 (血)カンファレンス/骨髄採取 (随時) (血)抄読会(隔週)	(血)朝回診 (内代)朝回診	(血)朝回診 (内代)朝回診 外来
午後	(血)カンファレンス (血)夕回診 (内代)夕回診	(血)夕回診 (内代)夕回診	(血)病理カンファ(随時) (内代)カンファレンス (血)夕回診 (内代)夕回診	(血)夕回診 (内代)夕回診	(膠原) 回診/カンファレンス (血) 夕回診 (内代)夕回診

循環器・腎臓・神経内科 (第三内科)

\square	必修科
	病院で定めた必修科
\square	選択科

診療科(部)長	楠瀬 賢也			
研修指導責任者	崎間 洋邦			
指 導 医 数	13 名	(2025年4月時点)	※初期臨床研修の指導 臨床経験年数7年J	
担当患者予定数	4~8名(うち新患	1~4名/週)		
主治医・副主治医の体制及びチーム体制 検査・治療の指導体制	り、屋根瓦式の指導係具体的導体をもった。指導を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	本制をとっている。 をはいずれのグルー をはいずで医内のは専任指 がループを一のでででした。 がループをできる。 がループをできる。 がいかでできる。 では、これでは、 をおいて、 といって、 、 といって、 、 といって、 といって、 といって、 といって、 といって、 といって、 といって、 といって、 といって、	03つのグループでグループに所属し、主治医 は導医となり、1年目 は導医がサポートする。 で病棟で働いている の確認を行う。選択研 がの専門コンサルタン で療を、所属するグルー	または副主治医とな 及び2年目研修医の 医局長は指導責任 臨床実習学生の指導 多として研修医2年目 トチームの一員とし
緊急時の対応について		間帯は指導医の監督の なじて研修医を呼び出)下に診療に当たる。? はす。	変間及び休日は当直
研修回診・検査・手術等	おける受け持ち患者は・診療録の記載:指導・検査及び手技:経りや手技は自ら主体的によっては指導医の指導・文書管理:患者の	の提示。 尊医とよくディスカッ 血(静脈、動脈)、検 こ行う。専門的検査及 尊のもとに実施する。	必要に応じて夜間や依 ションして毎日記載で は尿検査、心電図検査を なび手技は、助手として は書の作成や病歴要約の は書を行う。	する。 をはじめ基本的検査 て立ち合い、場合に
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	診では、受け持ち症例の月でローテーション	列のプレゼンテーショ ン終了となる研修医を	恒行われる。 週に1[ンを行う。毎月最終。 対象に、印象に残った アルカンファレンスを	週の教授回診後にそ た症例をスライド形
学会及び研究会	興味ある症例を受し	†持ったら、学術集会	で報告する。指導医療	がサポートする。
その他	修科研修でのローテー	ーションでは、原則と	-プを希望により選択し :して3か月間または: ループを選ぶことも可	2か月間で研修を行
週のスケジュール(回診	1 .		r	
<u>月</u> 午 前	火	水	木	金
午 後			13:30~ 教授回診	

消化器・乳腺内分泌・ 小児外科(第一外科)

- ☑ 必修科☑ 病院で定めた必修科※

☑ 選択科 ※基本、小児重点、周産期重点

	<u> </u>						
診療科(部)長	高槻 光寿						
研修指導責任者	者 大野 慎一郎						
指 導 医 数	8 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師						
担当患者予定数	10人前後の入院患者を受け持つ。						
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	研修医は、教員・医員等の指導医と共に主治医グループを形成し、主治医の1人 として患者を受け持つ。						
検査・治療の指導体制	受け持ち患者の術前術後の検査、治療方針について所属グループの上級医師(指導医)と相談し、計画実行していく。						
緊急時の対応について	受け持ち患者が急変等の際には、所属グループの指導医に速やかに連絡をとる。 休日に所属グループにおいて緊急の検査・手術が行われる際には当科ドクターより 連絡をいれるので指示に従う。						
研修回診・検査・手術等	【病棟】 各研修医は10人前後の患者を主治医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、手術、術前後の管理を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。 【外来】 週 1 回の入院患者カンファレンスおよび、外来にて新患の予診を行う。その他、外傷の縫合や創傷処置、生検などを指導医のもとに行う。 【回診】 毎朝夕、所属グループの回診に参加する。 【検査】 受け持ち患者の検査以外に、各種の検査に参加する。 【手術】 原則として、受け持ち患者の手術にはすべて助手として参加する。また、所属グループ以外の手術に参加することもできる。						
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	水曜15:00 週1回の術前術後カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う。 水曜16:00 週1回の抄読会に参加する。1回は抄読会を担当し、指導医に相談し適切な英文文献を探し、その内容を発表する。						
学会及び研究会	研修期間中の県内外の学会・研究会に参加し、発表を目標とする。						
その他	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じて手術 参加の免除や休息を与える等の適切な対処を行う。						
週のスケジュール(回診	· オペ等)						
月							
8:30~	8:00~ 9:00~ 8:00~						
午 外来・上部消化管・	カンファレンス 外来・手術 外来 カンファレンス ポルケッド カンファレンス						

	月	火	水	木	金
午前	8:30〜 外来・上部消化管・ 内視鏡検査	8:00〜 カンファレンス 手術	9:00〜 外来・手術	9:00~ 外来 消化管造影検査	8:00〜 カンファレンス 手術
午後	13:30~ 下部消化管内視鏡 検査	手術	15:00~ 術前後カンファ、抄読会	病棟患者処置	手術

心臓血管・呼吸器外科 (第二外科)

☑ 必修科☑ 病院で定めた必修科※

☑ 選択科
※基本、小児重点、周産期重点

	A 基本、 7 亿 重
診療科(部)長	古川 浩二郎
研修指導責任者	喜瀬 勇也
指 導 医 数	11 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	期間内に10人前後の入院患者を受け持つ。
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	研修医は、教員・医員等の指導医と共に主治医グループを形成し、主治医の1人 として患者を受け持つ。
検査・治療の指導体制	受け持ち患者の術前術後の検査、治療方針について所属グループの上級医師(指導医)と相談し、計画実行していく。
緊急時の対応について	受け持ち患者が急変等の際には、所属グループの指導医に速やかに連絡をとる。 休日に所属グループにおいて緊急の検査・手術が行われる際には当科ドクターより 連絡をいれるので指示に従う。
研修 回診・検査・手術等 症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	【病棟】 各研修医は10人前後の患者を主治医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、手術、術前後の管理を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。 【外来】 週1回の入院患者カンファレンスおよび、外来にて新患の予診を行う。その他、外傷の縫合や創傷処置、生検などを指導医のもとに行う。 【回診】 毎朝夕、所属グループの回診に参加する。 【検査】 受け持ち患者の検査以外に、各種の検査に参加する。 【手術】 原則として、受け持ち患者の手術にはすべて助手として参加する。また、所属グループ以外の手術に参加することも出来る。 週1~2回の術前術後カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う。その他、所属グループの検討会に参加する。
 学会及び研究会	週1回の抄読会に参加する。抄読会の担当になった場合は、指導医に相談し適切 な英文文献を探し、その内容を簡潔に説明する。 研修期間中の県内外の学会・研究会に参加し、発表を目標とする。
J A/AO MIJUA	WITENVALED I YVNC[J/ I Y/ J A WI/LATE S/NH U 、元以 C 口 (赤 C y で o
その他	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じて手術参加の免除や休息を与える等の適切な対処を行う。 【ケースレポート】 少なくとも1例以上の手術症例について、診断、検査、術後管理について症例レポートを提出する。退院患者毎に退院サマリーを作成し、指導医の添削を受け、加筆訂正する。
週のスケジュール(回診	・オペ等)

	月	火	水	木	金	
午前	7:20 回診 7:50 ミーティング 9:00 手術	7:20 回診 7:50 ミーティング 多職種カンファ 9:00 外来診療	7:20 回診 7:50 ミーティング 8:20 TAVIカンファ 9:00 手術		7:20 回診 7:50 ミーティング 8:40 多職種カンファ(ICU) 9:00 外来診療	
午後	18:30 呼吸器カンファ (第2,4週)	13:30 心臓カテーテル 血管造影検査 16:30 抄読会(研修室)	17:00 心エコーカンファ (第1,3週)	16:30 TAVIカンファ 17:00 循環器カンファ		

救急科

☑ 必修科 □ 病院で定めた必修科 ☑ 選択科

診療科(部)長	梅村 武寛
研修指導責任者	梅村 武寛
指 導 医 数	7 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	約 100 名またはそれ以上(新患を含む外来患者) 研修期間3か月の間に,研修医1名当たり救急症例500件程度を担当する予定。
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	0JT (on the job training) を原則とし、指導医の指導、監督の下で、担当医として救急外来、救急部入院診療に参加する。教員8名は全体を2チームとするチーム体制を取り、診療及び研修を相互にバックアップする。
検査・治療の指導体制	検査、治療の指導は、プライマリ・ケア及び救急に共通するものは全指導医で分担する。
緊急時の対応について	緊急時に対応するため研修医、スタッフの緊急連絡先を確認し、緊急時には臨機 応変できる研修体制を敷き、素早く対応する。特に処置時は、指導医が研修医に付 き、緊急時に備える。
研修回診・検査・手術等	【病棟(E-ICU/E-HCU】 各研修医は1、2名程度の患者を担当医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、手術、術前後の管理を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。 【救急外来】 毎朝夕の救急外来・入院患者カンファレンス参加および、外来にて新患の予診を行う。その他、外傷の縫合や創傷処置など必要な処置を指導医のもとに行う。 【回診】 毎朝夕、回診に参加する。 【検査】 受け持ち患者の検査以外に、各種の検査に参加する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	毎朝夕のカンファレンス(毎日)、症例検討会、最新ジャーナルを用いた抄読 会、研究報告(毎月曜日)
学会及び研究会	日本救急医学会総会、その他の学術集会
その他	毎日の指導医あるいは研修指導責任者との対話を通し、mental health care や研修指導方法への意見を汲み上げる。 【当直】 救急外来の当直(3~6回/月)

	月	火	水	木	金
	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修	0 00 // / / / / /	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修	3 3 3 7, 1 7, 1 7, 1	8:30〜 カンファレンス 救急外来診察研修
午後	13:00~ 病棟巡回 救急外来診察研修 17:00~ カンファレンス				

麻酔科

☑ 必修科(4週を上限に救急科研修とみなせる) □ 病院で定めた必修科 ☑ 選択科

診療科(部)長	垣花 学
研修指導責任者	仲嶺 洋介
指 導 医 数	13 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	1か月研修を行った場合、研修医1名当たり麻酔症例 15〜20 件程度を担当する 予定。
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	麻酔科研修においては、各麻酔症例の周術期管理(術前診察・術中管理・術重症 患者や救急患者の管理に必要な知識・技術も修得させる。 後回診)について、指 導医が直接その研修指導を行い、安全かつ確実な技術を修得させる。
検査・治療の指導体制	周術期の病態生理を基に鑑別診断を挙げ、必要な検査(採血も含む)と治療を指 導医と共に行い、併せて全身管理に関する論理的考え方(思考過程)を学ばせる。
緊急時の対応について	スタッフの緊急連絡先を明確にし、緊急時には臨機応変できる研修体制を敷き、 素早く対応する。
研修回診・検査・手術等	【病棟】 指導医による麻酔科術前・術後診察と前投薬の実施指導。 【外来】 術前診察依頼のある他科患者の診察等を指導医監督下に行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	術前カンファレンス、症例検討会(毎週金曜日)に毎週参加する。 最新ジャーナルを用いた抄読会(毎週火曜日)
学会及び研究会	3月と8月に沖縄県麻酔集中治療研究会(土曜日)の開催がある。
その他	シミュレータを用い、気管挿管・腰椎穿刺、中心静脈穿刺など、基本的手技を習得する。多種病態とその治療を経験させる。 【ケースレポート】 担当した症例検討会の内容を要旨としてまとめる。

		月		火		水		木		金
午前	7:50~ 8:30~	カンファレンス 麻酔管理	7:20~ 7:50~ 8:30~	抄読会 カンファレンス 麻酔管理	7:50~ 8:30~	カンファレンス 麻酔管理	7:50~ 8:30~	カンファレンス 麻酔管理	7:20~ 7:50~ 8:30~	症例検討会 カンファレンス 麻酔管理
午後					17:30	勉強会				

小児科

☑ 必修科□ 病院で定めた必修科☑ 選択科

診療科(部)長	中西浩一
研修指導責任者	浜田 和弥、兼次 拓也
指導医数	13 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	9名(うち新患4名)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	なり、研修医は副主治医としてチームに参加する。
検査・治療の指導体制	チームの指導医、医員が直接指導にあたる。
緊急時の対応について	随時対応する。
研修回診・検査・手術等	【病棟】研修期間中、指導医チームの一員として入院診療にあたる。 【外来】週2回、医療面接、外来処置を行う。 【回診】週1回の総回診に参加する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	入退院カンファレンス、症例検討会に毎週参加する。 抄読会:週1回参加する。 研修終了時に研修内容をスライド形式で発表する。
学会及び研究会	参加可
その他	協力病院小児科やクリニック実習で"common disease"、乳児健診、予防接種、 小児救急疾患について研修する。 退院患者の病歴総括、入院中患者についてはケースレポートを提出する。 週に1回程度、副直として指導医のもとで当直業務を行う。 土日業務に関しては、各Gで相違あり、必ずグループ上級医に相談すること。

	月火		水	木	金
午前	8:30~ 各G病棟回診		8:00~ web抄読会 8:30~ 各G病棟回診	8:30~ 各G病棟回診	8:30~ 各G病棟回診
午後	16:00~ 各G病棟回診	16:00~ 各G病棟回診	16:00~ 病棟回診	16:00~ 各G病棟回診	16:00~ 各G病棟回診

産科婦人科

☑ 必修科□ 病院で定めた必修科☑ 選択科

診療科(部)長	関根 正幸
研修指導責任者	銘苅 桂子、久高 亘、金城 忠嗣
指 導 医 数	5 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	担当患者予定数 30 名(うち新患 15 名)
	下記3グループのいずれかに所属し、各主治医が直接の指導医となり臨床研修を 行う。 ○産科・周産期グループ(責任者:金城忠嗣) 主治医 金城忠嗣、知念行子、金城淑乃 ○生殖・内分泌グループ(責任者:銘苅桂子) 主治医 銘苅桂子、平敷千晶 ○婦人科グループ (責任者:久高亘) 主治医 久高亘、仲本朋子、平良祐介、新垣精久、下地裕子
検査・治療の指導体制	検査・治療の適応ならびに方法については各グループ・カンファレンスにて検討 し指導する。 実施にあたっては各主治医が直接指導する。
緊急時の対応について	指導医が共同して対応する。指導医不在の場合にも、必ず他の指導医が共同して 対応する。
研修 回診・検査・手術等	グループ回診は1日2回、教授回診(婦人科)を週1回行っている。毎週月、 火、木は手術日である。
	毎週火曜日抄読会、隔週木曜日方針検討会、研修報告会、毎週金曜日症例検討会・病理カンファレンス、放射線カンファレンス。その他各グループで週に1回(周産期 水曜、生殖 火曜、婦人科腫瘍 水曜)カンファレンスを開催。隔週で三重大学、宮崎大学、熊本大学、産業医科大学との5大学合同周産期カンファレンスの実施
学会及び研究会	年2回の沖縄産科婦人科学会、年2回の沖縄県医師会学会産婦人科分科会、月に 1-2回、学会主催や共催の研修会・研究会が開催される。
その他	【ケースレポート・評価】 1)受け持ち症例について各カンファレンスにおいて症例提示を行う。退院時に ケースレポートを作成し提出する。 2)カンファレンスにおける症例提示は指導医が、ケースレポートは研修指導責任 者ならびに研修総括責任者が、それぞれ評価する。

	月	火	水	木	金
午前	8:30~ 病棟 9:00~ 病棟/外来 (新患予診)	8:30~ 抄読会·手術	8:30~ 医局会 9:00~ 病棟/外来 (新患予診)	方針検討会・研修報 告会 手術	8:30〜 放射線治療合同 カンファレンス 9:00〜 病棟/外来 (新患予診)
午後	病棟/外来 手術 隔週で5大学合同周 産期カンファレンス	病棟/外来 14:00~ 生殖内分泌グループ カンファレンス 16:00~ 研究発表会	カンファレンス 15:00〜 婦人科G 16:00〜 周産期G		病棟 14:30〜 症例検討会・病理合 同カンファレンス

精神科神経科

☑ 必修科□ 病院で定めた必修科☑ 選択科

診療科(部)長	高江洲 義和
研修指導責任者	石橋 孝勇
指 導 医 数	8 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	期間内に4人前後の入院患者(うち新患2人前後)を受け持つ。
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	研修医は指導医と共に主治医グループを形成し、主治医の1人として患者を受け 持つ。
検査・治療の指導体制	受け持ち患者の検査、治療方針について所属グループの指導医と相談し、計画実行していく。
緊急時の対応について	受け持ち患者が急変等の際には、所属グループの指導医に速やかに連絡をとる。 研修医が休日の時、所属グループにおいて緊急の処置が行われる際は研修医を呼び 出す可能性がある。
研修 回診・検査・手術等	3-4人の患者を担当医として受け持ち毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。また、所属グループのミーティングに参加し、週1回の新入院患者カンファプレゼンテーションや総回診に参加にて受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。その他、週2回のリエゾンの予診や修正型電気けいれん療法療法の介助、教授新患の予診・陪席などを行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	症例検討会に参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う場合がある。その他、所属グループの症例検討に参加する。
学会及び研究会	精神科専攻を検討している研修医に対し、学会及び研究会への案内をする。 積極的な参加を期待する。
その他	1.本研修を通して、精神疾患を持つ患者さんの苦悩を理解し、精神疾患への偏見をなくすことを第一目標とする。 2.指導医は研修医の心身の健康に留意する。このため、予め心身に不調を抱えている場合は申し出ること。 3.研修修了のためのケースレポート症例は研修開始時に、指導医と相談すること。
週のスケジュール(回診	
月 病棟業務(グループ 左 回診・カンファレン	

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務(グループ 回診・カンファレン ス等)	病棟業務	ス 総回診	リエゾン回診の準備 事前診察	教授新患予診・陪席
午後	リエゾン回診の準備 事前診察	リエゾンカンファレ ンス・回診	症例検討	リエゾンカンファレ ンス・回診	病棟業務

整形外科

□ 必修科
□ 病院で定めた必修科※

☑ 選択科 ※基本、小児重点、周産期重点

診療科(部)長	西田 康太郎
研修指導責任者	當銘 保則、大久保 宏貴、金城 英雄
指 導 医 数	11 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	7~8 名(うち新患5名)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	整形外科疾患の種類に応じて、①脊椎グループ、②腫瘍グループ、③手外科グループ、④人工関節グループ、⑤リウマチ・スポーツグループ、⑥小児整形外科グループの6つの診療グループに分け、期間内は研修医の希望する単一または複数の診療グループに所属しチーム医療を行う。 各グループで指導医を決め、指導医を主治医、研修医を副主治医として、マンツーマンで患者の診察、検査、治療を直接指導する体制をとる。
検査・治療の指導体制	指導医が検査、治療の方法を直接指導する。研修医の理解が十分だと判断された 後に、指導医の監視の下に研修医自らが検査、治療を直接実施する。 研修医に対して教科書あるいは文献的な情報を提供するとともに、文献検索の方 法を指導する。
緊急時の対応について	緊急事態が生じた場合には直ちに研修総括責任者に連絡をとり、適切な対応をと る。
研修回診・検査・手術等	【病棟】 各グループでチーム医療を行うが、主に指導医とともに行動し、入院患者を十分に把握するとともに、治療方針の話し合いに積極的に参加する。 【外来】 指導医とともに患者の診療にあたる。研修医は新患の問診を一人で行い、必要な検査と治療計画の立案と実施は指導医の監視の下に行う。 【回診】 回診においては、短時間に要領良く症例を呈示する能力を身につける。研修医は受け持ち患者の手術の際には、必ず助手として参加する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	研修医は自分の受け持ち患者の術前検討会において、症例の呈示を行う。 週1回研修医を対象にした抄読会を行う。また週1回の医局全体の抄読会に参加 する。
学会及び研究会	研修期間に適当な学会があれば、発表する。
その他	研修医に過度の負担が生じないように、指導医及び各診療グループの長は個々の 研修医の能力に応じて仕事量の調整を図る。 【ケースレポート】 研修医の知識習得及び評価のために、月に1回ケースレポートの作成を課す。

	月	火	水	木	金
午前	腫瘍グループ手術 他のグループ外来	脊椎外科、 手外科、 小児整形外科、 リウマチ・スポ [°] ーツ外科 手術	外来	脊椎外科、 手外科、 人工関節外科、 小児整形外科、 リウマチ・スポ [°] ーツ外科 手術	外来
午後	外来	脊椎外科、 手外科、 リウマチ・スポ゚ーツ外科 手術	外来	脊椎外科、 手外科、 人工関節外科、 小児整形外科、 リウマチ・スポ [°] ーツ外科 手術	外来

脳神経外科

□ 必修科
□ 病院で定めた必修科※

☑ 選択科 ※基本、小児重点、周産期重点

診療科(部)長	浜崎 禎
研修指導責任者	外間 洋平 ·副責任者 長嶺 英樹
指 導 医 数	5 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	4~5名(うち新患2~3名)
	基本的には1人の患者に対して指導医(脳外専門医)、主治医(脳外科専門 医)、受持医(脳外科非専門医・研修医)の診療体制をとる。 受持患者の検査・治療は、主治医グループの主体的な診療計画で行われるが、毎 週月水金曜日の症例検討カンファレンスでその是非について討議される。
	病棟の診療体制は病棟医長の病棟管理で入院・退院のアレンジは行われる。24時間脳外科オンコール体制が敷かれており、急変時・緊急時の対応については、主治医グループは勿論のこと、オンコール医も即座に対応する体制で行われている。
緊急時の対応について	主治医、指導医の指導のもとに行うのが原則。主治医不在の際は病棟オンコール 医の指示・指導に従って行う。
	【病棟】 受持患者を中心に病棟業務を行う。脳外科病棟業務を習得する。 【回診】 回診は参加義務があり、そのつど患者病状を説明する。 【検査】 受持患者の検査は予めセットアップし、主治医指導のもとに研修する。 【手術】 受持患者の手術には、主治医や指導医の指導のもとに、積極的に参加し術後管理こも参加する。手術には積極的に参加し、手術戦略を学ぶ。また、術前シミュレーション動画の作成やAugmented Virtual Reality 拡張現実の研修ビデオで仮想術者となり手術野の現場感覚を鍛える。
	月・水・金の毎朝行われているので参加し、受持患者の検討を行う。他科合同カンファレンスにも参加する。 沙読会:毎週水曜日(18:00)に参加し、研修医も輪番制で英文文献を抄読する。
学会及び研究会 た	日本脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科学会九州支部会などの学会への参加が可能。希望によっては学会発表も可能である。
	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じて手術参加の免除や休息を与える等の適切な対処を行う。 【ケースレポート】 受持患者の退院要約は受持医・研修医が提出し、教授が提出された書類を評価する。

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	8:00〜 クリニカルカンファレンス 8:30〜 放射線カンファレンス	手術	8:00〜 クリニカルカンファレンス 手術		8:00~ クリニカルカンファレンス 8:30~ 合同回診
午後	19:00〜 脳・精神・神経 合同カンファレンス(月1回)	手術	18:00~ 抄読会 手術	手術	

腎泌尿器外科

必修科
病院で定めた必修科
選択科

診療科(部)長	猪口 淳一
研修指導責任者	仲西 昌太郎
指 導 医 数	6 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	10名(うち新患 5 名)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	当科は3グループ制をとっているため、研修中はグループの一員として、患者を担当する。
検査・治療の指導体制	グループ制のため、研修中はグループの一員として、担当患者の指示出しや検査・ 処置に積極的に関わり、上級医からの指導を受ける。
緊急時の対応について	必ず上級医と相談して行い、単独の判断は禁止する。
研修回診・検査・手術等	【病棟】
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	術前症例検討会:毎週木曜日、朝7時30分から実施。 術後症例検討会:毎週金曜日、朝7時30分から実施。 合同カンファレンス(病理、放射線)水曜日の朝8時15分から開催。 (第1、3週:病理カンファレンス 第2、4週:放射線カンファレンス) 抄読会:毎週月曜日、朝7時30分から開始。
学会及び研究会	ローテーションの月による。
その他	研修内容に対する要望には柔軟に対応する。 必要があれば研修指導責任者が、生活面・精神面の調整を行う。

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
	7:30〜抄読会・ カンファレンス 8:00〜グループ回診 9:00〜外来	9:00~外来	8:15~合同カンファレンス (放射線 第2・4、	7:30〜術前カンファ レンス 8:00〜グループ回診 9:00〜手術(終日)	8:00~グループ回診
午後	13:00~検査	13:00~検査	13:00~手術	13:00~手術	13:00~検査

形成外科

	必修科
	病院で定めた必修科
\square	選択科

診療科(部)長	清水 雄介			
研修指導責任者	清水 雄介			
指 導 医 数	2 名	(2025年4月時点)	※初期臨床研修の指導 臨床経験年数7年』	
担当患者予定数	4~7名			
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	研修医は、上級医と	ヒ共にチームを形成し	、チームの一員として	て診療にあたる。
検査・治療の指導体制	検査・治療の方針は 主治医の直接指導のも		ンンスなどで適切な	選択を検討する。各
緊急時の対応について	基本的に、オンコー 帯電話でのオンコー/		とに行う。緊急手術の	の際は、PHSまたは携
研修 回診・検査・手術等 症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	把握する。日々の処置 【外来】 週2回の外来に対応 査による血管評価やタ 【回診】 毎朝・夕に行う。所 合同手術が不定期に行 ことが多い。 毎週水曜日、診療問	置は積極的に行い、上 芯する。外来患者の対 外来処置について上級 形成外科枠での手術は 行われる。特に、毎週 開始前に医局でカンフ	科と並診している患症 級医の指導のもとに研修する。 応について研修する。 医のもとに研修を行う。 は月曜日と水曜日に行る。 は日は耳鼻咽喉科	研修を行う。 とともに、超音波検 う。 われるが、他科との との再建手術を行う
ガンファレンス・ 処 強会等	レンスに参加する。	科開始前に耳鼻咽喉科	、口腔外科と合同の頭	
学会及び研究会	参加義務はないが、 	タイミング次第で希	望ばがあれば参加可能	能 。
その他				
週のスケジュール(回診		,	r	
月 8:00~ 病棟回診 午 手術 前	外来	水 7:30~ カンファレンス・勉強会 カンファレンス 終了後~病棟回診 手術	木 8:00~ 病棟回診 外来	金 8:00~ 頭頸部カンファレンス 終了後~病棟回診 手術
手術 午 後		手術	外来	手術

皮膚科

	必修科
	病院で定めた必修科
\square	選択科

診療科(部)長	高橋 健造
研修指導責任者	宮城 拓也
指 導 医 数	4 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	3~5名
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	Senior doctor、Junior doctor、後期研修医で患者を担当する。専門分野によらず、皮膚悪性腫瘍、自己免疫疾患を中心に様々な疾患を診ている。
検査・治療の指導体制	Senior doctor が中心になり、方針をたてるが、総回診、カンファレンスなど、 科全体で治療の詳細を決定する。
緊急時の対応について	研修医自らの判断で緊急時の対応はしない。指導医とともに、患者への対応を行 うようにする。
研修 回診・検査・手術等	勤務時間は院内規程に準ずる。(休日は土曜、日曜、祝日)医療上必要となる処置については時間外、休日に業務が発生する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	教授回診、カルテカンファレンス、病理組織検討会がそれぞれ週1回行われ、沖縄勉強会が月1回程度の頻度で開催される。
学会及び研究会	年3回の日本皮膚科学会沖縄地方会が行われる。
その他	皮膚科関連の学会にも積極的に参加して症例報告を行う。希望があれば、基礎研究などにも参加して、医学全般への関わりをより深いものとする。 外来日は火曜日、木曜日、金曜日、手術日は水曜日、金曜日となっているため研修はそれにあわせプログラムされている

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	入院、病棟	外来処置	入院手術 手術日	外来処置 病棟	外来処置
午後	13:00〜 病棟回診 外来 病棟 カンファレンス 〜17:00頃まで	外来処置 病棟	オペカンファレンス 入院カンファレンス		
			患者包交、病棟受け持ち 患者の治療、受け持ち患 者が手術の場合は手術に		病棟患者包交、病棟受け 持ち患者の治療。

耳鼻咽喉・頭頸部外科

必修科
病院で定めた必修科
選択科

診療科(部)長	鈴木 幹男
研修指導責任者	平川 仁、真栄田 裕行
指 導 医 数	13 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	40~60 人(新患 20~30 人)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	担当医(研修医)→主治医(経験 7 年未満の助手・医員)→指導医
検査・治療の指導体制	聴覚検査など非侵襲的検査:単独で行い結果の解釈は指導医らに確認。生検など 侵襲的なものは指導医の監督下に行う。鼓膜切開、鼻出血、気管切開処置、など簡 易な手術や処置は指導医の監督下に行い、鼓室形成術や副鼻腔手術、悪性腫瘍手術 などは指導医の助手として参加する。
緊急時の対応について	医員、助手以上の教員が常時対応できる診療体制を整えている。
研修回診・検査・手術等	【病棟】 8階北、8階南病棟にて行う。44床を有する。処置は特別に設けた処置室で行っている。 【外来】 4階耳鼻咽喉科外来で行う。耳鼻科特有のユニットや顕微鏡、内視鏡、超音波器機に慣れる。 【回診】 月の午前 8 時 30 分、木の午後 3 時から行う。 【検査】 随時 【手術】 月、火、水、金 (※耳鼻咽喉科研修中に数例の気管切開、扁桃摘出術の術者を経験する。)
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	カンファレンス:水曜日午前 7 時から行う。 血液内科、放射線科合同カンファレンスを行う。月曜日午前 7 時 30 分から(高エネルギーセンター) 抄読会:毎週水曜日最新の海外文献を発表する。(水曜日午後 6 時から)
学会及び研究会	
その他	【ケースレポート】 外来、病棟から随時症例を抽出し、症例検討会時に行う。
週のスケジュール(回診	・オペ等)
月 手術、外来、処置 午 前	火 水 木 金 手術、処置 外来、手術、処置 手術、処置
手術、外来、処置 午 後	手術、処置 処置 手術、処置

眼科

必修科
病院で定めた必修科
選択科

診療科(部)長	古泉 英貴
研修指導責任者	澤口 翔太
指 導 医 数	4 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	2名(週当たり)
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	緑内障、網膜硝子体、黄斑疾患、ぶどう膜炎、小児眼科、眼形成の専門外来があり、研修医は可能な限り全分野の外来診療(主に新患)に関わり、主治医がフィードバックを行うことで疾患への理解を深める。入院グループの主治医のもと、研修医が副主治医となる研修体制で指導を行い、手術準備や手術の第一助手を行う。
検査・治療の指導体制	屈折・視力などの外来一般視能検査は主に外来医長の監督のもと、視能訓練士が 指導する。 検査の適応や結果の解釈については外来新患担当医が指導する。治療方針決定に 関しては、各疾患別診療チームに委ねることを原則とする。
緊急時の対応について	研修医にのみ診療に当たることがないように、常に指導医が院内に待機する体制をとっている。 また、指導医が対応不能の場合には、原則として研修指導責任者が直接対応する。
研修回診・検査・手術等	【病棟】
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	在院日数が短く、外来患者数が多いことを背景に全症例の全医局的な検討は行っていないが、難治例や、希少例に関して厳選して症例検討、治療方針の決定を多角的に行っている。また、専門診療チーム毎に症例検討をおこない、研修医の技能向上に努めている。 ・抄読会:眼科英文雑誌の論文を和訳することで、医学英語力と専門用語の理解を深めること、学術論文の理論展開を習得する。
学会及び研究会	稀な症例、また難症例に関して症例報告、また研究内容については、各専門学 会、研究会で報告し、論文化に努める。
その他	
	・オペ等)
月	火水水金
午 外来/手術 前	8:30~ 回診 外来/手術 8:00~ カンファレンス 手術 外来 外来

外来/手術

外来

手術

外来 16:30~ 医局会

カンファレンス

手術

午後

放射線科

	必修科
	病院で定めた必修科
\square	選択科

診療科(部)長	西江 昭弘
研修指導責任者	飯田行
指 導 医 数	6 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	診断: 100 名(読影レポート)、治療: 20 名
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	放射線部における各種検査・読影業務(診断、RI 部門)、あるいは放射線科外来における治療業務(治療部門)について、研修を行う。従って、他診療科における主治医・副主治医の概念はない。 各部門はそれぞれチーム医療として複数の医師がひとりの患者に対し医療行為を行う。
検査・治療の指導体制	指導医がマンツーマンで直接指導を行いながら、日常臨床に参加させる。
緊急時の対応について	原則として必ず担当指導医が対応するが、指導医不在の場合は他の指導医が対応 するものとする。
研修回診・検査・手術等	【病棟】 治療部門の研修において行う。副主治医として、放射線治療中の患者管理を研修する。 【外来】 治療部門の研修において行う。主に、新来患者の診療を行う。指導医のもと、治療適応の判断、治療計画立案を行う。 【回診】 治療研修のみ毎日行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	診断・治療共通:週一回の症例検討会に参加し、自分が担当した治療患者 (IVR、放射線治療など)のプレゼンテーションを行う。 診断:科内の勉強会に参加し、画像診断に関する発表を行う。 県内放射線科、他科とのカンファレンスも希望があれば参加する。 治療:さらに他科とのカンファレンス (婦人科、耳鼻科、口腔外科、脳外科、血液内科等)に参加する。
学会及び研究会	
その他	

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	7:30 頭頚部・血液腫瘍 カンファレンス 8:00 放射線治療部 カンファレンス 8:30 脳腫瘍カンファレンス	RALS 12:30 勉強会	7:30(月2) 泌尿器科カンファレンス 7:30(月1) キャンサーボード 8:00 脳神経外科カンファレンス	治療G勉強会 8:15	8:30 婦人科治療カンファ 15:00 婦人科腫瘍カンファレンス 12:30 勉強会
午後	18:00(月2) 呼吸器カンファレンス 19:00(月1) 肝胆膵カンファレンス		17:00 症例検討会 医局会 18:30 画像診断勉強会	IVR研修	16:00 診断G 振り返り

病理診断科

	必修科
	病院で定めた必修科
\square	選択科

診療科(部)長	川上 史
研修指導責任者	川上 史
指導医数	3 名 (2025年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	上級医・指導医が診断を行う生検標本あるいは細胞診標本の一部を分担するととも に、切り出しに関与した手術症例を担当する。また、研修期間中に剖検があれば、 上級医・指導医とともに剖検を行う(共通研修とは別に)。
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	「研修医-院生・医員・スタッフ-指導医」あるいは「研修医-院生・医員・スタッフ/細胞検査士-指導医」によるチーム体制をとる。
検査・治療の指導体制	週に数回、上級医とともに切り出し、診断を行ってもらいます。
緊急時の対応について	研修指導責任者まで連絡のこと。
研修 回診・検査・手術等	1)標本作成過程の理解と染色の実際 2)生検材料および手術材料の取り扱いの実際(特に手術材料を中心に) 3)切り出しを行い、組織検体の取り扱いや肉眼病理診断を研修するとともに、生検 標本や手術標本あるいは細胞診標本の検鏡を行い、病理診断を実地に研修する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	病理診断科カンファレンス:毎週水曜日13:15から 呼吸器カンファレンス:月2回、月曜日 血 液カンファレンス:月1回、水曜日 泌尿器カンファレンス:月1回、水曜日 婦人科カンファレンス:月2回、金曜日 研修医CPC:年2~4回 剖検症例検討会:症例ごとに別途通知
学会及び研究会	場合により、学会発表を予定している。
その他	カンファレンス:病理診断科カンファレンスは原則、毎回参加
週のスケジュール(回診	<u>.</u> ・・オペ等)

	月	火	水	木	金				
	8:30〜12:00 切り出し	8:30〜12:00 切り出し			8:30〜12:00 切り出し				
午後	13:00~17:15 診断	13:00~17:15 診断	13:00〜17:15 病理診断科カンファ レンス 診断	13:00~17:15 診断	13:00~17:15 診断				

リハヒ゛リテーション科

必修科
病院で定めた必修科
選択科

│ 診療科(部)長 │	山田 尚基			
研修指導責任者	名嘉 太郎			
指 導 医 数	3 名	(2025年4月時点)	※初期臨床研修の指 臨床経験年数7年	
担当患者予定数	主に外来診療を中	心としてます。入院息	忌者を毎日診察し30∼	50名/月の患者診療
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	診療を行います。指 方針決定する体制で	、各指導医・医員で記 導医・専攻医と共に記 す。特に主治医・副主	診療し、チーム医療の E治医制ではありませ	基本的考えをもとに ん。
検査・治療の指導体制		初回見学し、その後指 もセラピストとの協力		
緊急時の対応について	はリハビリテーショ	急時の対応については ン部のリスクマネーシ	ジャーとも連携しつつ	対応する。
研修 回診・検査・手術等	リテーション処方、 る。処方内容がセラ 検査や治療としては 針筋電図検査、心肺	D患者様を診察します リハビリテーション言 ピストで実施できてい 嚥下機能評価(嚥下内 機能検査(CPX)、ボ 経験を得る事ができる	↑画の立て方をアセス ヽるかを確認しつつ方 ア視鏡・嚥下造影検査 ツリヌス療法やバクι	メントして実行す 針を調整していく。)、神経伝導検査・
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	す。月1回振り返りの 週に2回医師とセ に参加をする。 勉強会は時間と希	回指導医と相談しなか D症例検討会を実施す ラピストのカンファレ 望あれば指導医が適宜 、小児のリハビリテー	る。 ∕ ンスを実施。適宜病 冝、運動器疾患、脳卒	棟カンファレンス等
学会及び研究会	日本リハビリテー ン医学会・協会	ション医学会(学術集 (本人の希望があれば	ミ会・地方会)、沖縄 ば学会発表も支援する	
その他	の診療見学も行う。 院での診療見学も検	福祉施設 更生相談所 希望あれば回復期(ち 討します。		
週のスケジュール(回診				
月	火	水	木	金
	外来診療	外来診療 CPX検査	外来診療 カンファレンス(呼 吸器患者)	外来診療
外来診療 午 痙縮外来 後	外来診療 カンファレンス(が ん患者)	摂食嚥下支援チーム 回診 神経伝導検査・針筋 電図検査		更生相談所見学・療育センター診療見学

第5章

協力型臨床研修病院の概要

日本赤十字社 沖縄赤十字病院 地方独立行政法人 那覇市立病院 公益社団法人 北部地区医師会 北部地区医師会病院 沖縄県立北部病院 沖縄県立中部病院 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 沖縄県立宮古病院 社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院 社会医療法人 敬愛会 中頭病院 社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院 社会医療法人 友愛会 友愛医療センター 医療法人 おもと会 大浜第一病院 医療法人 沖縄徳洲会 中部徳洲会病院 医療法人 沖縄徳洲会 南部徳洲会病院 旭川医科大学病院 公益財団法人 がん研究会 有明病院 医療法人 晴明会 糸満晴明病院 独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院 沖縄県立精和病院 医療法人 和の会 与那原中央病院

沖縄赤十字病院

						沖	縄	⋷┼	字病	院						:					
住		所	〒90)2-858	8 沖綿	4県那覇	弱市与 偏	養1丁目	3番1号												
ホー	ムペ	ージ	http://www.okinawa-med.jrc.or.jp/						p/ 回游名						36A						
常	常 勤 医 師 61名(初期研修医除く)						指	導	医 数	16名											
研修	実施責	賃任者	豊見	山 傾	È				指	導	医	赤嶺	盛和			他					
年間タ	小来診 療	寮日数	243	日(202	24年度)			一日 =	平均息	息者数	374.	5名(2024年	度)						
病	床	数	302)	床																	
基本的	りな勤務	時間	平	日	平日	8:	30~17	: 10	土	日			休	診							
休診日	1 笙		祝	.日		休	:診		慰霊	の日			6/23	休診							
NID L	14		旧	盆		曜日	通り		年末	年始		1	2/29~	1/3休記	诊						
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病					
			急	邢九	児	婦	神	形	神経	泌 尿	成	虚	鼻 咽		射	理 診					
			忌	酔	児	人	們	外	外	器外	外	膚	喉		線	形 断					
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科					
研修 受入	0	\circ	\circ	\circ		0		\circ		0											
	その都合	iにより	、研修	受入れ	いが難し	い場合	合があり)ます。)			<u> </u>									
	ブルーフ 血液、		1 循程	- 架	- 444																
17377	皿和文、	叮奶稻	1、1/目均	尺 位计、	刈又																
病院の)特徴		<特徴	数>																	
基本力			急性期医療、二次救急医療、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院として、疾病																		
			の予防	り予防から治療並びに災害救護を含めて大きく地域の医療の一端を担っている。																	
			<其オ	太方針 :	>																
				, , , ,		:意思	を尊重	します。)												
					とで良好	質な医	療の提	供をと	おして、	患者さ	きん、ご	家族の	満足と	職員の	つやりか	いを					
			追求し		比 、宁 []	111 7	/会ま否と	とわフロ	京成 に出	⊬∋荘ナ .↓	日供でき	ムフ トニ	*h *	: τπ <i>l</i> /s	<i>₹.\</i> ₩\⊭	1 庶					
						(CUC.	、沿棋、	34 VO	左/原 C 沿	汉段で1	是供でき	うつよう	、敎目	、41开11多	を推進	し貝					
				向上に努めます。 4. 地域と連携を密にし、県民の健康増進に貢献できる医療活動を追求します。																	
	<u>動時</u> の 医の処遇		①身分:常勤嘱託医師 ②給与:1年次/300,000円 2年次340,000円																		
14丌1多区	とリク処理	<u> </u>	•				-	2年次3	340,000)円											
				③賞与:年2回(夏・冬) ④手当等:時間外手当、住居手当、通勤手当あり																	
				9 子 当 寺 ・																	
			⑥社会保険:健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険																		
白八日	3 4 L n + ~			, 	÷ 、		-	n+	7 n±												
	<u>動時</u> の)有無・		-				祝:9			0.01	1.1.										
	> 11 ////	нтин	有						. 7時-			:\ . 1	7 n±	যায় ∧ π∙	L						
研修医	が利用で	できる		~ 佰 區				金.	工・日	1/月 1	回程度	() · 1	/ 時一	- 笠9時	₹						
	の有無		有	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	, ,,,	VVI 1/	, ,														
その他	<u>t</u>		·学会	<u></u> 参加(》	寅題発	表含む)の場合	合、交ì	通費・宿	泊費 <i>0</i>	つ支給あ	51)。									
			•日本	赤十字	:补距点	研修四	医研修?	会(1年	次のみ	.)へ参	hп.										
			ログ	.vi. 1 1	1-LHIII/	・サログド	→ 17川沙,	ムニナ	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1 2	→H0		日本赤十字社臨床研修医研修会(1年次のみ)へ参加。								

那覇市立病院

		那覇市	立病院			回海海回
住	沖縄県那覇	育市古島2丁目31番地1				
ホームページ		ww.nahacity-hospital.	· -			■93936 4
常 勤 医 師	134名		***	医数	60名	
研修実施責任者	外間浩		指導	医	豊見山 直樹	他
年間外来診療日数	206日		一日平均息	思者 数	579名	
病床数	470床	T		T		
基本的な勤務時間	平日	8:30~17:15	土日		休み	
休診日等	祝日	休診	慰霊の日		休診 ————	
	旧盆	通常診療	年末年始		12月28日~1月3	日休診
内外	救 麻 急 酔	児	整 形 N N N N N N N N N N N N N N N N N N	成外	皮 耳 眼 鼻 瞬	放射線
科 科	科科		科 科 A A		<u>科 科 科</u>	科科
受入	TIL 194 205 1 1 70	┃ ○ ┃ ○ ┃ いが難しい場合がありま		0	0 0 0	0 0
内科:総合内科、消化 外科:肝胆膵、消化 放射線:診断 整形外科は、外傷が 病院の特徴 基本方針	管、乳腺・甲 メインと現在4 患者数では14 患病病のからのでのからでのからでのからでのからでのからでのからでのからである。 利ののではある。 はのではある。 はのではある。 はのではある。 はのではない。 はいでは、 とった。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	470床、33診療科のほ 5,086人、入院延患者 。平成17年1月に厚生 定を受ける。 一は、365日、24時間 整形外科、産婦人科 6年度の全救急患者数 579台を数え、幅広い	か、16種の専門 数135,469人で 労働省から南部 の終日診療を行 が、その他の は22,101人、一 疾患の診療が絡	門特殊外来 平均在院 『医療圏に テっちオン ・日平均6 経験できる	日数は10.88日 こおける地域が)、診療科目は コールで診療で 0.5人で、年間	の急性期総合 ん診療連携拠 、内科、小児 ごきる体制を 救急車搬送患
研修医の処遇	身分:非常	勤フルタイム医師 原則 平日(月〜金) ス 日額15,000円 24	8:30~17:	15	時間外手当有り)
<u>身分異動時</u> の 当直の有無・詳細	有	を・当直・小児科の場		17時~19	時半)勤務)	
研修医が利用できる 駐車場の有無	自動二	퇃 有料:6,000円/♬ ニ輪(50cc) 有料: ニ輪(上記以外) ≉	1,500円/月	∄		
その他						

北部地区医師会病院

				7	化部	地区	医	師会	病院	<u> </u>				回然	
住	所	沖組	県名護	市字字	₹茂佐1	712-3									W _
ホームペ			ps://ho	okubui	shikai.	.com/		I							
常勤医		45名	-	,				***	導		15名				***
研修実施責		諸喜		7				指	導	医	川又	. 久永	<		他
年間外来診療		243						一日-	半均息	息者数	259				
病 床	数	230)	水					<u> </u>		ı					
基本的な勤務	時間		日			-17:30			日				木		
休診日等		-				・祝日			:の日 		- 10		通り		
		IH	盆		曜日	通り		4末	年始		12,	月30日	~1月	3 H	
内	外	救急	麻酔	小児	産婦	精神	整 形	脳神経	腎泌尿	形成	皮膚	耳 鼻 咽	眼	放射	病理診
科	科	科	科	科	人科	科	外 科	外科	器 外 科	外 科	科	喉科	科	線科	断科
研修 〇	0	0	0				0				A				0
≫病院の都合 ▲:体制が整			多受入 お	いが難し	い場合	合があり)ます。	•	•						
診療・ 方科・ 病科・ の方子 一の大子 一の大子 のの世界を ののせる ののも ののも ののも ののも ののも ののも ののも のの	内科、	リ 時代タを 医営にす 上選望 しか 北間謝一果当地型病。本げ択に 勤 発力	ア 「下牧、心と完てご完善完るがよ」第チ 地急外臓しは解行に でた望り 時科 区医科血い 消み措 のめま他 間	乳 原外 会応形科するとさ 床はい診会応形科するとさ 床はい診	科 病の外 、域、もて 修地考科	ふ 、期 環 け立他健 望療れ数	学外 地院学의 療所立理 る目6択 域でが開 係よ療ン 場選月で	らあ設 健び訴々 (択間で)。。いし ・名等一 地科。研 ・	参ま地 祖華に穿 戏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Let Company Compan	内にも ら際は各 こつそり 科心中 努所病診 のせけま 一次	化こ病 し軍運斗 妾 れ ――――――――――――――――――――――――――――――――――	・しー る、図師 係く能吸心と 山れてず 理もお	器臓し 間ゆい援 解から 開める はがら はがら はがら はがら はがら しり はい かい	分ぎひ 也な こ
研修医の処遇 身分異動時の		【給与 初其		年目	基本約基本約	÷ 300	,000円 ,000円		<u>^</u>)	· 日》8:	30~]	12:30)		
当直の有無・	詳細	有	土曜日日曜・	祝日	12:3 9:0	30~18	: 00/	18:00 18:00							
研修医が利用で駐車場の有無	ごきる	有	職員駅	E車場 ———	無料										
その他															

沖縄県立北部病院

						沖絲	単県	立非	公部派	対院					■ 888	ÿ•
住		所	沖組	県名護	市大中	⊐ 2−12−	3									超二
ホー	ムペ	ージ	htt	o://www	v. hosp	.pref.	okinaw	a.jp/h	okubu/							29%
常	勤 医	師	45名	I					指	導 图	医 数	14名				
研修	実施責	任者	永田	恵蔵	Š				指	導	医	佐々	木尚美	ŧ		他
年間夕	卜来 診療	療日数	242	日					一日3	平均息	息者数	267	名			
病	床	数	327)	末												
基本的	可な勤務	時間	平	日		8:30~	-17:00		土	.日			1	木		
┃ 休診E	1等		祝	.日		休	診		慰霊	の日			休	診		
PNIDE	17		旧	盆		診	療		年末	年始		1	2/29~	1/3休割	診	
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
			急	酔	児	婦	神	形	神 経	泌 尿	成	膚	鼻 咽		射	理診
			心	H T	汇	人	<u>ተ</u> ቸ	外	外	器 外	外	屑	喉		線	断断
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
研修受入	0	0	\bigcirc		\circ	0		0								0
≫病院	の都合	により	、研修	受入れ	が難し	い場合	合があり)ます。								
=\(\cdot \)	a) 1)	•														
	バルーフ 総合内		化器内	1科、循	環器内	內科、腎	腎臓内科									
病院の 基本方					. –						融合した		瓦方式	の研修	Ç O	
	J 亚										000例。					
									ごきます	-	行われて	ていまり	士			
									ことがて			こいよ	9 。			
					-						,。 富な件数	女と幅.	広い症	例(カ	ぜから)
											common					
			険な	な疾患 き	・見逃	さない	力を修	得しま	きす。							
身分馬	動時の)	【給与	ī. J												
	の処遇			_	2 4001	工 (修医手	当识 2	(x)							
			【手当		۵, ۱۷۷۱	1 (.11)	100円 1	コ 及い	<i>^</i> /							
					.	勂毛业	(上, 法	71m11	上)	. 沿崗	主 业					
			70/1	/丁ヨ		助丁彐	(八.)	LKIIIPA.	 /	赵柳	(1)					
	動時の															
当直の)有無・	詳細	有	月平均	∃ 4∼6[回 ※要	相談									
	が利用で			宿舎:	研修图	医宿舎	あり(研修医	は家賃	光熱フ	k費無料	4)				
宿舎・	駐車場の	の有無		職員専												
その他	<u>h</u>		・詳刹	出は当際	記ホー.	ムペー	ジを参	照して	こいたた	どくか、	担当和	皆まで	お問い	合わせ	けくださ	۲۷)
				7.7						• • •	,		. •			

沖縄県立中部病院

D.		 -)L. &B	H.II > 2	. 1		电宗.	<u> </u>	1 <u>0</u> 01	ろり 元						恩 —
住		所		!!!うる				• , .								罐 —
-	ムペ				uweb. ho	sp.pret	.okinawa	a.jp/uni	hawaii/	*	÷ 샤.	co 6				764
	勤医		233:		<u> </u>					夢 医		-	-	,		/114
	実施責		尾原		<u> </u>				指	導	医	豊里				他
	ト来診! 上		243						一日-	平均思	君数	413	<u>名</u>			
病	床	数	559)													
基本的	了な勤務	時間		:日			~17:00			.日				診		
休診日	等		-	日			診		慰霊					診		
			[E	盆		曜日	通り		年末	年始		12	/29~	·1/3¢	木診	
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
			4	t-		婦	t. t.	形	神	泌尿	成	-15	鼻		射	理
			急	酔	児	人	神	外	経	器	外	膚	咽		線	診断
	科	科	科	科	科	科	科	科	外 科	外 科	科	科	· 喉 科	 科	科	科
研修	()	()	()	0	0	()	17	()	()	\triangle		17	0	17	0	17
受入	_	_)	_ ○ ○ ○ ○ ○ ○ △ △ ○ ○												
	さすき挂	けのみ	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	は体制が	をいる	次第	J 14 - W)	7 5 9 0	•							
診療力	ブルーフ	ĵ°														
			科、循	香環器 内	7科、原		内科、氵	肖化器	内科、腎	腎臓内	斗、					
		7科(神														
外科:	外科、	心臓血	1管外科	4												
	ri da Miri		/ st_t_ ts	1.\												
病院の 基本方			(特徴									_				
	7 25 1		断ら	ない非	:米型 E	R ·	・元祖屋	屋根瓦ス	方式 ·	・豊富な	な症例数	女・ノ	ハワイス	大学と	の連携	
			(基本	方針)												
			1 協調]性(対	医療征	(事者)	:チー	- ム医療								
			2共感	! (患者	fとの=	ミユニ	ニケーシ	ンョン)	:患	者-医	師関係					
			3責任	£感:患	者一医	医師関係	系、チー	-ム医療	療							
			4知諳	战・手技	え (智慧	引: (計	問題対応	芯能力、	症例提	是示						
			5 計画	立案・	優先順	[位化:	:問題対	対応能力	力、安全	全管理						
							系、チー									
					. п	-H-1-12-Q-12	,,,		٠,							
身分異	<u>動時</u> σ)	給与額	頁:月額	1 年	三次	勺332,4	00円、	2年次	約33	9,500F					
研修医	医の処退	H ₁	手 当						直勤務し			ΛШ				
							(年額)	942,00	00円 2	4 十八市	y43,00	0[7]				
				1	年次:	約1,	139,37	4円	2年》	欠: 約	勺1,381	,380円	J			
			勤務時	怀□ 閉:間:	勤務寺 [則 - 混	-当、スヨ38.75	艮職手≟ 時間	É								
			年次有	育給休暇	是:年間] 1 生	F次10E		2年次1							
			社会保	段等:					手金、労 且合、均					呆険(6か月)	1
						, ME/	,A/加5 	マノマ1月 小	<u>т</u> П′ ү	1) J A 1	// /	1				
	<u>動時</u> の			月8回	まで											
ヨ単り)有無・	古千	有													
7T 1.62 1-7	383 4 m.	T. Y. 7														
	が利用での有無	できる														
	12711		無													
その他	h		タア	<u> </u> ついて	<i>1</i> 十亜 <i>四</i>	建宝双										
し レノ介刊	r.		ぼに	ノV・し	は女俳	E中心。										
			i													

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

	7	半 純	光7	L鬥i	过作	:孫1	マノ	ツー	٠ ,		も世	≤獠	ピノ	ツ-		
住		所	∓ 9	01-119	3 沖絲	14.	兄郡南 🛭	虱原町?	字新川1	18-1					回源	2 <u>.</u>
ホー	ムペ	ージ	htt	ps://n	anbuwe	b.hosp	p.pref.	okinav	va.jp/							變二
常	勤医	師	153	名					指	導 医	医 数	72名	1		■2%	Agra .
研修	実施責	任者	土屋	建 洋之	<u>,</u>				指	導	医	土屋	1 洋ズ	<u> </u>		他
	外来診療		243		急外来	: 365 E	∃)		一日 3	平均患	見者数	627	名(外	来)、	340名	(入院)
病	床	数	444.	床												
基本的	りな勤務	時間	平	:日	8	8:30~	~17:0	0	土	.日		シフ	フトに、	より異	なる	
休診E	7等		祈	1日		休	診		慰霊	の日			休	診		
ггнл н			ÍΕ	盆		曜日	通り		年末	年始			12/29)∼1/3		
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎泌	形	皮	耳	眼	放	病
			急	酔	児	婦	神	形	神 経	尿	成	膚	鼻 咽		射	理診
			764			人	""	外	外	器 外	外	/	喉		線	断
研修	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
受入	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0
≫病院	元の都合	により	、研修	②	が難し	ノい場合	ゴかあり	ソます。								
病院の基本が)	【1234)基)(1234))))))(特)))》基)))))))))))))))))))))))))))	邪見度呻島方民民ん育伏院民蝿用与当務暇舎会 〓医の多り、針と生で がずが県の::時: 及保地療専機体へ】協活い研治が原の:: 時: 及保地圏門能合き 「働をる修療ンれ基形1年間 年び険 方圏	診病併地 し守こ病方テる幹態次間:欠丙、公療院症医 、るど院針ィ、病: 外基有院 務(医療 共教もとにア県院 3勤本給内 員ご 療支 感急達しつの民と会3 教的 40 0 員	ど		寺限育葉行域配員F当3(有 期間に成でい交慮 次(~日 組合の17年病 31)三年病 員	します。 さす。 さす。 さいでは、 はでは、	う努力 が 交流 で 子上 間 宝 生 年 ままま まままま まままままままままままままままままままままままま	がいく同 進ます。 期末手 目 (2年病院に ・労働者	きます。á、休日内の研修f災害補	勤務手	当、退	職手当	
当直の	<u>異動時</u> の	詳細	有		回/月											
	が利用で	じさる	有	条件あ	りり											
その他	<u>†</u>															

沖縄県立宮古病院

 住		所	- 油組	直 堂 さ	: 自市习		电汗 . F里427		<u> </u>	ろりし						嗯 —
	ムペ						okinaw		ivako/	'index.	html					% –
-	<u></u> 勤 医		57名				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	W JF/ II		 導		18名				
	~ 実施責		藍原	-	1				指	"—— 導	医	藍原	-			他
	· 来診療		241								 悬者数					,,,
病	床	数	277)	末												
基本的	な勤務	時間	平	日		8:30~	17:00)	土	:日			休	:診		
			祝	.日		休	 :診		慰霊	 の日			———— 休	 :診		
休診日	等		-	盆			<u>ド</u> り診療	į	-	年始		19日90		データイプ 月3日に	+ / 未 ※	
	-1-	ы									т/					-4
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳 神	腎 泌	形	皮	耳鼻	眼	放	病 理
			急	酔	児	婦	神	形	経	尿 器	成	膚	咽		射	診
	* V	4 /1	4 VI	#VI	#VI	人	* 1	外	外	外	外	*\1	喉	4 /1	線	断
研修	科	<u>科</u>	<u>科</u>	科	<u>科</u>	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
受入		0	C TH M	0	18#41	O	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	0		0				0		
≫ 狗阮	の都合	により	、加州	多文人《	いわき用し	ノい場合	ゴかめり	ソより。	•							
シード かんしゅう かんしゅ かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅ しゅん かんしゅ しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん	゛ループ															
内科:	呼吸器	· 腎 ·	膠原洞	財、総合	診療、	循環語	器、消化	化器								
外科:	一般外	科														
病院の			当院	記は、智	含古郡,	島にお	ける地	域支援	景病院と	という	幾能、	役割を	背負っ	ており) 、277	床
基本方	針		(一舟	设200床	(IC	U4床	, НС	U4床	, NI	C U 3)	床、G	CU3F	床を含む	む)、	精神科	45
							、回復									
															対急疾 息	
													-		きまで多	
															宮古島 を設、 れ	
															は政、で	
															た配り	
			U , _				, <u>c</u> , <u>d</u> , -		. , , ,	31/21		J. H	2.0.1	- 9 / 31/		ДУО
	動時の						条の2第	1項に	定める-	一般職の	D地方公	務員	(会計年	度任用	職員)	
伽修医	の処遇		月額:	1年次		,400円 ,500円										
			手当:				明末手当	4、涌횈	助手当	(片道)	2 k ml	以上).				
			, –	休日勤				11 /22	77 7 —	(//~=	_ 11 1117	/\/ \				
			社会係	段:採	用1年	目(健	康保険·	厚生年	金、労	働者災	害補償係	険、雇	用保険	(6ヶ)	∋))	
							則)(均		員共済	組合、均	也方公務	肾炎害	補償基金	金)		
			有給付				F間 1(F間 1 〕									
				171	八八八		十月 1 1	ГП								
	動時の			6回/	/月(图	隼夜勤	17:	00-	23:	00)						
当直の	有無・	詳細	有													
研修医2 宿舎の2	が利用で 右無	きる					用2戸		 与		t :)[2]	<u></u>		`		
ппо	77T E1		有				※ (爿 ついて				一」1本十分	立2000	门/ 月)		
その他	1				. (4/	-,,,-		- 2011	- 12 48 4 1							
ての地	4															

浦添総合病院

						j	甫添	総合	滴	完					■ ‰!	■
住		所	∓ 90	01-2102	2 沖絲	1県浦湖	た市前田	31丁目	56番1号	-						
ホー	ムペ	ージ	htt	ps://j	in-aik	ai.com	/uraso	e/							i i eo √	~ -
常	勤 医	師	137:	名					指	導	医 数	56名	, 1			
研修	実施責	〔任者	藏下	要					指	導	医	藏下				他
年間タ	卜来 診療	寮日数	296	日					一日	平均息	息者数		患者延べ数 患者延べ数			
病	床	数	334,	床												
基本的	対な勤務	時間	平	日	8:30-1	7:30 (3	変形労働に	時間制)	土	.日	8:	30-17	: 30 (3	変形労	動時間制	钊)
// =4 =	- <i>6-6-</i>		祈	日		休	(診		慰霊	の日			曜日	通り		
休診日 			ÍΕ	盆		曜日	通り		年末	年始		1	2/30~	-1/3休	診	
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
			<i>5</i> 2.	≖ +.	10	婦	4.4.	形	神	泌 尿	成	rich (鼻		射	理
			急	酔	児	人	神	外	経 外	器 外	外	膚	咽喉		線	診 断
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
研修受入	\circ	0	\circ	0				0	\circ	\circ	0		Δ		Δ	\circ
≫病院	この都合)ます。					l	<u>I</u>		
<u>△</u> :直 診療な	重近にな ブルーフ	<u> </u>	・と受入	、可否の	回答が	いできた	よい。									
内科	4:病院	総合、						糖尿症	有内分泌	Z.						
	斗:消化 a:ER、			呼吸器	景、乳腺	1、心脈	蔵血管									
	就:画像 記:画像		1755													
病院の) 陸微		プライ	フロ・ケ	マ研修	の山で	时人の) 刍 州 甘	nc 串 σ	つフネジ	メントに	・舌きた	・選く			
基本方			実践×	(フィー)	ベバック	の救急	研修									
			·救急 ·緊刍	ローテ3	か月十	ER当道 没療など	≦を通し ど 24 ほ	て、3次 時間 str	マ救急て	:学ぶ。 !対広な	救急車' :ほとん。	7,000 ビタマル	台/年、 证修医:	ER受記 が行う	》2万人	./年。
											る。ドク					
			主沙區	ミとして	チ盟す.	ス内科ス	研修									
			·病院	総合内	科で、脈	歳器を特	寺定せす									
			・指示学ぶ。	されて重	めく担当	医では	はなく、自	自ら考え	語べ行	動し、	入院から	退院書	で管理	里する「	主治医」	として
				研修医	との屋村	艮瓦体制	制の構築	蒅。 症例	川は極め	て豊富	であり、	肺炎、	慢性期	疾患、	担癌患る	皆、膠
			原病、	ACPな	ども学	べる。										
				は制の専												
							は必修 挿管に			・ニリッナン	Z					
					,,											
	<u>動時</u> の この処遇			: 1年》 : 当直				(賞与)	なし)	2年次	341	,000	円/月(賞与な	し)	
11/171多区	こり火心圏	Ī						日 /	2年次:	20 日)、年末	年始、『		暇		
							30,00 会 更明				Eあり) T賠償責	また (畑	I that	`		
				・ 健康 診断:			立 <i>、</i> /隹/1.	才不哭、	刀火休	炒、	見 一口以中	四八工八四	八川八	.)		
								回の学	会参加	/発表	浸演者の	場合は	は年 5 [回まで病	房院負担	₫.
				論文作 負担割												
白八円	ません			厚生:2	種補助	り(リゾ-	ートホテ					·				
	<u>製動時</u> の)有無・		有	市ソ 4~	70 凹	(上限8	凹) /月	1 XZ	ェロ 午付	さは、 店	見リフリ	_				
	が利用で	できる	有													
	, , , , , ,		[7]													
その他	<u>f</u>															

中頭病院

			쒸 5	垻 派	沙兀							_
住所	沖縄県沖絲	■市字登川610	番地								開闢	<u>.</u>
ホームページ	http://ww	w.nakagami.	or.jp								高級	# T
常 勤 医 師	77名(初期	研修医除く)			指	夢	医 数	42名				
研修実施責任者	間山 泰男	₹			指	導	医	與那	覇に	3博		他
年間外来診療日数	294日				一日ュ	平均患	見者数	632名	乙(外	来)	340名	(入院)
病 床 数	355床											
基本的な勤務時間	平日	平日:8:	30~17:	30	土	日	Ξ	上:8:3	0~12	:30	日:休み	み
休診日等	祝日	t	ҟ診		慰霊	の日			曜日	通り		
	旧盆	曜日	1通り		年末	年始		12	2/31~	1/3休	診	
内外	救 麻 急 酔	小 産 児 人	神	整 形 外	脳神経外	腎泌尿器外	形 成 外	皮膚	耳鼻咽喉	眼	放射線	病理診断
科科	科科	科科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
研修 ○ ○	0 0	Δ		\bigcirc								\circ
内科:総合、消化器、 外科:消化器・一般、 病院の特徴 基本方針 身分異動時の	呼吸器、末梢 当院は1982 「高度急性 「集学的が 医療環急医療 また、地域	血管、乳腺、心 年4月に開院、 に開際、 に提供」 ん治を表療のまで、 を を で援病を と た と に に に に に に に に に は は は は は は は は り と る た ま ら る た は り と る た ら と し た し た と し た と し た と し と し と し と し と	臓血しで」。、、が、はで 断地	見県中 手術写 、化学 ない 域の 図	部医療 E設備 を療法 救急医 療機関	圏にま り充実 ・手術 療"を 関との	・ICU/I ・放射 目指し 病病・3	HCUの強線治療 取り組 病診連	食化を により んです 携を引	図っっよ うり うりめ、	ておりき り質の す。	ます。 高い
身分異動時の	○給与/月年間 ○当務暇修会働康師部 ○分 ○外 ○外 ○外 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	: 1年次:	7:30 1年賃公の従い等では、1年賃公の選事:参加を用者個加	10日 月2万 寮 有年 2 加 ア	2年次 円) 食(政府 雇用(回) (強制	:11E 管掌健 呆険:	1)夏季 建康保 育	休暇、	年末年年金代		孠生年ኇ	È)
当直の有無・詳細研修医が利用できる	有	#V 4 ~ 7 但 	/ 月									
駐車場の有無 その他	有 ※受入に関 性有り	して:診療科	トシロー	テーシ	/ョンで	ける研	修医数	によっ	ては、	受入	不可の	可能

ハートライフ病院

						<i>/</i> _	<u> </u>	<u>ノヿ</u>	ノ派	<u> </u>						₽_
住		所	〒90)1-2492	2沖縄県	中頭郡	『中城村	字伊集	美208番	地						&
ホー	ムペ	ージ	htt	os://ww	ww.hea	rtlife	.or.jp	/							国家的	F.
常	勤医	師	93名	1					指	夢 医	数	45名	1			
研修的	実施責	任者	普天	間光	彦				指	導	医	普天	間 爿	化彦		他
年間夕	卜来診 療	療日数	295	日					一日 3	平均患	息者数	457.	3名			
病	床	数	308)	床												
基本的	な勤務	時間	平	日		8:30~	-17:30		土	日		土8:	30~12	2:30	日休	
休診日] 笙		祝	旧		休	診		慰霊	の日			曜日	通り		
	1 4		旧	盆		曜日	通り		年末	年始		1	2/31~	-1/3休	診	
	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎泌	形	皮	耳	眼	放	病
			急	酔	児	婦	神	形	神 経	尿	成	膚	鼻 咽		射	理 診
			75.	H I	الر	人	111	外	外	器 外	外	Ţ.	喉		線	断
TT 1.67	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
研修 受入	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0		0		\circ	A		\circ	\circ	\circ	\circ
2年目:体力:家科 院本	5針	療科受い 保護 はい	ナ前、 器 【24地地医日DK【①②③④⑤⑥⑦⑧ 入出 、 病時域域師本父基安地24患職社社健 、 病時域域師本父基安地24患職社社健	可かれ、一般の一般では、一般の一般では、一般の一般では、一般の一般では、一般の一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	要科 総 【急病病指評(高医のし活らに経調選 合 指院院定価標 い療断、きれ対営整排 グ ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・) で	日	を	定第GB る る る る る る る る る る る る る る る る る る る	97-5号				6女们	пусо	
研修医 身分異 当直の	<u>動時</u> の <u>動時</u> の 動 <u>時</u> の	詳細	・・・・・・たから 動給手休加医める かんしゅん	:::::::::::::::::::::::::::::::::::::	基本 31、 文 手間3 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	73,335円 ケ保に必康が3,335円 月険施要診	月/月 月 当/2日 上/2日 健康 と と と と と と と る と る と る と る と る と る と	2年次 E宅手当 I付与、 R険、年	353,5 当 6ヶ月 F金保険	340円/ 以上/ 食、労災	⁄月 5日付与 &保険、	. 雇用仍	保険の 記	適用あ	ト勤務あ り。 限られて	
研修医 駐車場 その他		ごさる	有													

友愛医療センター

					友愛	9医	療も	1ン!	ター				ı	■ ※((•
住	所	沖縄	見豊県	山城市字	字根5	0番地5									# <u> </u>
ホームペ	ージ	<u>htt</u>	ps://r	eside	nts.y	uuai.c	or.jp/								**
常勤		153						***	導 医			•	8.6現在	:)	
研修実施責			伸洋					指	導	医	新崎				他
年間外来診		293						一日	平均患	君数	650	名			
病床	数	388)	床 ———							1					
基本的な勤務	時間	平	日		8:30-	17:30		土	:日		8:30)-12:3	0(土の	み)	
休診日等		祝	[日		休	診		慰霊	の日			曜日	通り		
		旧	盆		曜日	通り		年末	年始		休	診(12	/30-1/	3)	
内	外	救急	麻酔	小児	産婦人科	精神	整形外科	脳神経外科	腎泌尿器外科	形成外科	皮膚	耳鼻咽喉科	眼科	放射線	病理診断科
研修	科													科	<u>科</u>
受入 ○ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※			研修受入れが難しい場合があります。												0
** \\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	,,,,	Y H/TIS		070 XE C	/ · · ////	17 U).	<i>,</i>	'							
内科 産整 病基 字が	野管、肝 経科、婦 開・ 肝	胆人・ バ大を 門研一の 平 土 膵科・ イ学統当の修先真 日 曜	肺不股 ル高しの師セン島に軽い サ度た特へミ	LP1k、 イ医プ徴気ナ数ぶ D-17 : - 0-12 : - 17	トリップを表現である。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9月 察き有診でレ星すをるし療き一沖。 重日て科まシ縄	i RyuMIC い けがすっ 全 全 を イ を イ と イ に と イ に と イ に る に る に る に る た る と る と る と る と る と る と る と る と る と	る「群星 プロタ」 全国の「 また、 も 強強国:	沖縄 ブラリ11 医局強会 徳田	原 (((・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	で学病に 修医を でいる も魅力 生総合	院の研 : 受けえ : ため ! のひ ! 内科	修プロ 人れま 因った とつに 改育回 記	グラム す。 定例等、 挙げら、 き 診、寺	、)」 、専 れ、 澤秀
身分異動時の 当直の有無・ 研修医が利用・ 駐車場の有無	詳細	有	診療和	斗問わ	ず当直	 有									
その他		医、分		コメテ						<u>ること</u> ら勉強					

大浜第一病院

		大浜第-	一病院		
住所	沖縄県那覇	市天久1000番地			
ホームページ	https://ww	ww.omoto-recruit.jp/jo			□153 € 359
常 勤 医 師	68名		指導		
研修実施責任者	岡田 祥一	•	指導	医 前田 武俊	他
年間外来診療日数	297日		一日平均息	息者数 384.2名	
病床数	217床				
基本的な勤務時間	平日	8:30~17:30	土日	土 8:30-12:30	日 休診
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り	
	旧盆	休診	年末年始	12/31, 1/2~3	3休診
内 外 科 科 研修 O O	救 魚 酔 科 〇	小 産 精 整 房 中 外 人 科 科 科	神 神 経 外 科 科 科	形 皮 耳 眼 成 膚 咽 外 喉 科 科 科	射 理
文人 「		 いが難しい場合があります			
内科:心臓血管セン 脳神経内科、	糖尿病センタ	内科、内視鏡センター、 一、腎臓内科(透析セン ・肛門外科、眼形成眼窩	′ター)、消化器		
基本方針	救急診療科を形にしている。 一般 では、 一	を筆頭に、専門研修が行 と器一般外科などで豊富 と技を行わせる環境があ 行えます。 『医ともに現場で実戦的 としてスキルはも身に います。	える循環器内系な研修を り、研修医 に働ける若手と にサーン、症例 にかった。 はつの、症例	ヽる医師に必要な人間力 圣験を通して臨床力を高	センター、整 問わず研修医 多いため充実 を育てます。
<u>身分異動時</u> の 研修医の処遇	・研修手当: ・勤務時間は 間とする。 ・年末年始4 ・各種保険:	S休み※年間を通じて週 (例) 当直、緊急手術、 (1年次) 10日 (2年次 日、旧盆1日、産前産後	込 (2年次) : 30 (土) 8:3 40時間勤務。 カンファレンス) 12日・特別化 ・育児休業有り 雇用保険、労災	340,000円(税込) :0~12:30日、祝祭日は 必要に応じて上記時間以 ス等 木暇:夏季休暇3日、病6	外でも研修時 休休暇5日
<u>身分異動時</u> の 当直の有無・詳細	当直約有	1月7回			
研修医が利用できる 駐車場の有無	有				
その他	※発表は年 ・福利厚生互	活動学会研修会等への参 E2回に含めない 互助会有り、昼食補助有 G舎無し(但し家賃補助	り、病気入院、	外来治療費は減免有り	

中部徳洲会病院

		中部征	忠洲:	会抦	阮					14321E	
住 所	〒901-2393	3 沖縄県中頭郡北	中城村等	字比嘉 8	301種	番地					<u> </u>
ホームページ	http://www	w.cyutoku.or.jp/									
常 勤 医 師	105名			指	夢 医	医 数	29名				
研修実施責任者	早川 真人			指	導	医	比嘉	信喜	Ī		他
年間外来診療日数	294日			一日 =	平均患	見者 数	7154	<u> </u>			
病 床 数	408床										
基本的な勤務時間	平日	平日 8:30~1	7:00	土	日			土日	休		
休診日等	祝日	休診		慰霊	の日			曜日	通り		
	旧盆	曜日通り		年末	年始			12/3	1-1/3		
内外	救麻	小 産 精 婦 人 八	整形外	脳神経外沿	腎泌尿器外	形成外	皮膚	耳鼻咽喉	眼	放射線	病理診断
研修 〇 〇	科 科 O O	<u>科 科 科</u> ○	科	科	<u>科</u>	科	科	科	_科_	科	科
受入 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
麻 酔:麻酔、ICU 小 児:総合 放射線:診断	下部消化 管	血液、循環器 賃、肝胆膵、乳腺、	心臓血	章、スラ	テント、	、末梢』	血管、『	乎吸器			
病院の特徴基本方針	でれ児僻しく123456	を理解し、安全ないできます。 を対し、安全ないでは、 ないででは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	いど医師 全チつをンすしシん療の を一け身テるて一な活養 心ム、に一た	きてはなど、ご覧をレインのとの通目 るをなるン学のとの通目 るをなるン学のより	医プランド 医環 生習療ラ者です 践境 力習を イ様 、。 すに を慣	受マで患者 るお 身をりられる こうしょう おおり にゅうしょう こうしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう しょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょう かんしょう はんしょう かんしょう しょう かんしょう かんしょう しょう かんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	れケ確中 適 けつ ない るい あん はん	会し察動 検」っでき 査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	:目指しり、患治療を	ノている 対に療 様の痛 計画で	ら、 離 、 き る
<u>身分異動時</u> の 研修医の処遇		: 当院設内 ・ 剪: 原則12時30分~1									
<u>身分異動時</u> の 当直の有無・詳細		当直時間:17時~7日 当直時間:17時~7日									
研修医が利用できる 駐車場の有無	有										
その他											

南部徳洲会病院

		南部徳洲	会病院							
住所	沖縄県島尻	郡八重瀬町字外間171番地	11		_ 1000 1000 _ 1000 1000					
ホームページ	https://ww	ww.nantoku.org/								
常 勤 医 師	72名		指 導 医	医数 27名						
研修実施責任者	今村 恵		指 導	医 服部 真己	他					
年間外来診療日数	365日									
病 床 数	345床	345床								
基本的な勤務時間	平日	8:30~17:00	土日	土8:30~12:30						
休診日等	祝日	当直体制(研修は休み)	慰霊の日	通常診療 (土日の場合は当直体制 12/30午後~1/3	、研修は休み)					
	旧盆	通常診療 (土日の場合は当直体制、研修は休み)	年末年始	(研修は休み	*)					
内外	救麻魚酔科科	小 産 精 整 児 人 神 外 科 科 科 科	脳神経外科	形 皮 耳 眼 成 鼻 咽	射調調					
研修 〇 〇	0 0	0 0								
	、研修受入才	いが難しい場合があります	0		<u> </u>					
診療グループ										
放射線:診断、治療病院の特徴 基本方針 基本方針	「	会病院は昭和 54 年開設係でも、だれでもが最善のでもが最悪のといる。 でも、だれでもが最悪のといる。 を柱に高度先進展の民間の場合では、沖縄県の民間では、沖縄に職員では、神ののでは、 下から洋上救急協力やのででは、 でも、がある。 では、神のでは、 がある。 でも、がある。 でも、がある。 の開設当初から研修医を をモットーに、実践方式 では、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	太頼「生命だら を療を受けらら 予調病を第1号の 一丸とと 一丸、と が が が が が が が が が が り した と が が り り の の の の の の の の の の の の の の の の	れる社会」目指し、日 防医療に幅広取り組んで 対急指定病院に指定さ 取り組んでいます。離 急搬送協力を始めており 績があり、約50件/年で 集中治療室へ移動し治療 「救急を断らない、何で	マ、救急医療やごいます。 れ「絶対に救 ・動物に対しし、 ・動力にを関した。 ・ないにより、 ・ででであることがでいる。 ・でであることの ・ででいる。 ・した。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・					
研修医の処遇 有給休暇:1年次10日、2年次11日 1年次基本手当:308,000円/月 賞与:410,000円/年 当直:25,000円/回 2年次基本手当:329,000円/月 賞与:658,000円/年 当直:30,000円/回 時間外手当有 住宅手当(家賃半額支給24,000~最大50,000まで)、 通勤手当:4,100円~24,500円(距離に応じて支給) 身分異動時の 10~6回/月										
当直の有無・詳細	有 希望等	5相談 ————————————————————————————————————								
研修医が利用できる 駐車場の有無	有									
その他	・健康診断年 ・医師賠償係	录 険、厚生年金、雇用保险								

旭川医科大学病院

		<u></u> "	川医和	<u> </u>	字派	<u> </u>						■	
住		市緑が丘東	2条1丁目	1番1号							_ 333 _		
ホームページ	https://ww	ww.asahikaw	a-med.ac	.jp/ho	spita	1/						90	
常 勤 医 師						夢 医	数数	78名	ı				
研修実施責任者	牧野 雄一	-		1	指 導 医 牧野 雄一					•		他	
年間外来診療日数	243日			-	一日 -	平均患	者数	1354	1.3名				
病 床 数	602床												
基本的な勤務時間	平日	8:30	~17:15		土	日		休み					
休診日等	祝日	f	木診		慰霊の日								
אייוא דו ע	旧盆				年末年始		12/29~1/3休診						
内 外科	救 麻 魚 酔 科 科	小児科 科科	精 神 科 科	脳神経外科	整形外科	腎泌尿器外科	形成外科	皮膚科	耳鼻咽喉科	科	放射線科	病理診断科	
研修 〇						177							
文八)、研修受入∤	 1が難しい場	<u></u> 合があり	ます。			ļ			ļ	ļ		
診療グループ 内科:循環器内科、 病院の特徴 基本方針 身分異動時の 研修医の処遇	【病院の特徴 患者標】 ①人権・尊を全 ②予防理観に変 ・・・健にあ ・・・・健にあ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・基本理念】 療を実践し、 を思い遣る患さ を心がける中で 医学に取りの 医学に取りので を創造し、その で身分異動 医(非常動職員) を価 9,075円/ 特殊勤務手当、	地域医療にという。 一世域を大いのでは、たいのでは、大いのでは、ないのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	工寄与す 注療を行を 注療療療 活度療 で 活度 で 活度 で で で で で で を が に で を を を を を を う に し り り り り り り り り り り り り り り り り り り	う。 提祉を育信 5,000	¯る。]上に貢 ネする。 ¯る。	献する。						
身分異 <u>動時</u> の 当直の有無・詳細	社会保険等:健身 宿日直有	東保険(国家公務 直有(月2~						[保険法(沙 適用あ	り、雇用(呆険あり 		
	無												
その他	当院では臓器別の分類では、大きないのでは、はいいのでは、大きないのでは、いきないのでは、これでは、いきないのでは、いきないのでは、いきないのでは、いきないのでは、いきないのでは、いきないでは、いきないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	多を受け入れる。 ・して「専門性を持 はもちろん、一旦である。 となるべき、できない。 を疾患としてがらいでののでは、 がいいではいいでは、 をいいでは、 でいいでいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでいでは、 でいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでいでは、 でいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいいでは、 でいでは、 でいいでいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでいでは、 では、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいとは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 でいでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	内科では生活 持った総の を争う初別科会 のの ではため をも初別科会 のの ではたり ではたり ではない ではない のが、 のが、 のが、 のが、 ではが、 ではない ではが、 ではずいではながながではながでは、 ではずいではながではながではながではながではながではながではながではながではながではなが	命に科見の緊にやな疾性のいる。というないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	す育確かすな間 性症のののない 判の急性 無いの 無いの 無いの はいり はいり はいり はいり ないり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり は	広い領域室が低いのでは、 な教でする。 は大きのでは、 は大きができる。 は大きができる。 は大きができる。 は大きができる。 は大きができる。 は大きができる。 は大きができる。 は大きができる。 はいでも。 はいできる。 はいできる。 はいできる。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいで	をカバート であること 能力を養・ショラ を展・ショラ か対応でどれ で、T・MRI・ 電解質代	しており、 こをきともナーク・検査・シーク・検査・シーク・ を系統で、 SPECT 加加の は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	各指導に いて切と考 生女 を を を を き き き を に い と を き き き き き き き き き り し い い り に り し い り に り し い り に り し い り に り し り し り し り し り し り し り し り し り し	医の内でいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できます。 、 できまず。 できままが、 は、 できまが、 は、	の下「総合 として方、将 高す。 ・。 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、 ・、	合力のおり である おりかん かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい か	

がん研究会 有明病院

		がんね	研究会	有明	病院	記			•		•	
住		0 東京都江東	夏区有明3-8-3	1					<u> </u>		3	
ホームページ		ww.jfcr.or.jp	p/hospital/i								¥	
常 勤 医 師				指 導		数医	32名					
研修実施責任者									ţ		他	
年間外来診療日数		243日 一日平均患者数 1,740名 644床										
病 床 数	044床											
基本的な勤務時間	平日 8:50~17:25				土日 休							
休診日等	祝日	休診 曜	慰霊の	D目								
	旧盆				始		1	2/29~	1/3休記	参		
内外	救麻	小産	精 整	脳	腎泌	形	皮	耳	眼	放	病	
	急 酔	┃ 婦 ┃ 児	神	神経	尿	成	膚	鼻 咽		射	理 診	
			外	外	器外	外		喉		線	断	
科 <u>科</u> 研修 ○ ○	科科	科科科	科科	科	科	科	科	科	科	科	科	
受入	ΔΟ		0		\circ	0				0		
≫病院の都合によ △救急科の受け入れ												
 診療グループ												
内科:消化器、呼 外科:消化器、呼			1液腫瘍科									
病院の特徴 【病院の特徴】 -理念:がん克服をもって人類の福祉に貢献する- 当院は、昭和9年、日本初のがん専門病院として 29 床で発足し、平成 17 上池袋から江東区有明に移転し、現在、644床の充実した内容を誇る近代的 る。開院当初より常にがんの診断と治療の最高の技術を提供し続けると共							丘代的#	病院で る	あ			
	最も先進的 実績と高度 病院の指定 各科それぞ 1人1人のた	ながんの臨床(医療などへの) を受けている。 れが責任をも めに、病院の:	研究を推進し 取り組みが記。 って診断・浴 最高の機能な	ノてきた。 評価され、 台療を行っ バ発揮され	. 平成 厚生 ってるよ	t 23 年 注労働ナ るが、 こうに、	E 10 / に臣か 病院: また/	月 に は 民 民 体 者 き と き き き き き も き き き き き き き き き き き き	、これ では初 しては んが専	までの]の特定 、、患者 [門家を	医機能 たり	
	歩くのではなく、患者さんを中心に各専門職が集合するシステム(チーム医療)になっている。 がん研有明病院の特徴として、がん研究所、がん化学療法センター、がんプレシジョン											
		ンターとの密 、電話による:										
白八田新味の		の支援活動も	活発に行われ	ている。								
<u>身分異動時</u> の 研修医の処遇	基本給:302 賞与:なし	2,000										
		に応じて、時	間外手当・信	主宅手当	・家族	手当等	節を支続	给				
身分異動時の	(勤和	努初月のみ無し	U)									
当直の有無・詳細	有											
研修医が利用できる 宿舎の有無	無無し											
その他 【初期臨床研修について】 当院は、国際的にレベルの高いがん研究所、がん化学療法センター、がんプレシジョン 医療研究センターと共に先進医療を実践する病院であり、がん専門病院ではあるが、初期臨床研修に対応した各科それぞれ基本のプログラム及び指導体制があり、研修医ーレジデントー医員ースタッフの一貫した教育システムのもと、臨床の基本から高度医療へと段階的に進むことが可能である。									i、初 iーレ			

糸満晴明病院

					ž	於満	晴り	挪	元				I	回線[
住	j	斤 沖糸		ます字グ	大度520	番地									<u>ن</u> ق
ホーム	, ~ - ·	グ htt	ps://w	ww.sei	mei.or	g/									F2
常勤	医	币 11名	Ż					指	導 医	医 数	4名				
研修実	施責任	当 平日	日 雄三	<u>:</u>				指	導	医	髙橋	· 正明			他
年間外系	长診療日	文 244	·日					一日平均患者数 104.7名							
病	床	文 297	297床(内43床 休床)												
基本的な	:勤務時間	4	^左 日		8:15~	17:15	j	±	:日		休				
休診日等	Ę	初	7日		休	診		慰霊の日			曜日	通り			
		[E	盆	ウークイのみ休診			年末年始			12/29~1/3休診					
	内 外	救	麻	小	産婦	精	整形	脳神	腎泌尿	形成	皮	耳鼻	眼	放射	病 理
		急	酔	児	人	神	外	経 外	器 外	外	膚	咽 喉		線	診 断
研修	科科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
受入)都合によ					\circ									
~ // ~		に平り平れ 【・・・・・選成ま成る 基明療地医健	120年 との養成寮全さ年。年ど 方く者と従なれか にり 計清の連事経 お清の連事経	こら 認り マベル ないは 認り な権を密しよま民 知り 環を密しよ	た。 間 定 定 で 重 し の病院 を で 重 し の に に に に に に に に に に に に に	と	は、設りのありにない。し、し、し、おりのでは、おりのでは、おいては、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	いち 早く 知れる 一年 と 知れる 一年 医原する と 原療る と で の で の で の で の で の で の で で の で の で の	、	ます。	専門の って、: もしま・)外来診 ユマニ [、]	診療を耳	又り入れ	ても
<u>身分異動</u> 研修医の		–	D給与規 は、直接		_			ます。							
<u>身分異動時</u> の															
		有		/					1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	克					
当直の有	 f無・詳細 利用できる								3 (33/2	₹					

国立病院機構 沖縄病院

					国1	工 柄	阮榜	構	泙	縄犯	列沅					■
住		所	沖縄	県宜野	肾 育市	対対古3	丁目20	番14号	•							¥
ホー	ムペ	ージ	http	os://o	kinawa.	hosp.	go.jp/									ř.
		医 師	29名						***	導 图	医 数	7名				
		責任者	大湾						指	導	医	渡嘉		₹		他
		療日数	約24						一日	平均息	息者 数	118.	.9名			
病	床	数	300)	来												
基本的	りな勤和	务時間	平	日	基	幹病	院と同じ	<u>ت</u>	土	.日			同左			
休診日	子等		祝	.日	休診			慰霊の日				曜日	通り			
				盆	曜日どおり(祝日なら休診)			年末年始		12/29日~1/3は休割				休診		
	内	外	救	麻	小	産	精	脳	整	腎泌	形	皮	耳	眼	放	病
			急	酔	児	婦人	神	神経	形外	尿器	成外	膚	鼻咽		射線	理診
	科	科	科	科	科	科	科	外 科	科	外 科	科	科	喉 科	科	科	断 科
研修 受入	0	0														0
	党の都合	合により	、研修	逐受入 者	いが難し	い場合	合があり)ます。)	ļ	!		Į.		ļ	
		0														
	ブルース	プ 器内科、	脳神系	圣 内科、	緩和医	医療科										
	:呼吸器		антти-	21 31 10	100 100	- /2(11										
病院47	方針		たを岐科神診発れ【管にに科神習か格癌担には経断ににプ理つ適は経得ら形語にオ手襲、行学に西には、等す、成	参っつ4年(万女1型~刀)を广(なからの4年)でである。 でんしょ でんしゅう かいしゅう いいしょう いいしょう いいしょう いきょう いきょう いきょう いきょう いきょう いきょう いきょう いき	爰)(牧ン生ら門なこ熟芯器楚そ・ゝ和ま検がタ理り医の掲すで外知の緩てケす査年一検まが特げるき科識化和も	ア、部間的査す舌敳る,る妄ケ寄」呼門約役、。発】目呼基患診当ア与の吸で18割病他に「標吸本の察院・し	_	医は支 し、科行 るは療識神や療、内によら消で と、能、経神	と市鋧肺ららりに もここの画経行炎鏡癌りに化お にと(断像難れ、心理・診病・心理・診療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	慢査年早見内ま 呼て学台新られ閉年11の大、。 器常見、神く	ら塞間00入学消 内臨、基経、の性約例院と化 科床画本生緩分肺32を実の器 ・で像的理和	野疾0超数共外 外遭診な検・に患例えは同科 科遇断手査終お、「ま65研、 、す等技の末	い間っす00究放 脳る)を基期て質に。例で射 神頻を学礎医治療	中縄肺り神数遺泉 ・昼で習べ、神の縄・原・神数遺泉 ・日の得、神の得、神の得、神の神の機のは、神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神	の患。笑多参り かいる神病会中、呼患く断り 基呼。経理も心結吸はのない 本吸呼内の多	内変器本画どそ 内器及科基ハ役等外側をお 診疾器は礎こ割多外の像活ぞ 療患外、をと
研修图	<u>関動時</u> の 医の処況	男	1~2	2ヶ月6	の研修の	のみ可	能									
	<u>星動時</u> の の有無		無													
	が利用の有無		有													
その作	也			•												

沖縄県立精和病院

					沖絲		立精	f和指	対院				1	■8 8%(■
住	所	〒90	1 – 110)5 沖海	縄県南	風原町	字新川	260							£
ホームペー	_		os://by	oinjig	gyokyo	ku.pre	f.okin	awa.jp							<u> </u>
	師	8名						1	導		5名				
研修実施責任	_		一夫	.				指	導	医	屋良		Ė		他
年間外来診療日		243日													
病床	数	精神246床、結核4床								ı					
基本的な勤務時間	ij.	平				-17:00			:日			休			
休診日等		祝				·診 		慰霊の日			休診				
		旧盆 —————		通常どおり		年末年始		12/29~1/3休診				診 ———			
内外		救急	麻酔	小児	産婦人	精神	整形外	脳神経外	腎泌尿器外	形成外	皮膚	耳鼻咽喉	眼	放射線	病理診断
科 科 研修	,	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
受入	- ()	研修	受入す	1.が難1	ルハ場と		 ます								
病院の特徴基本方針											が行出患者				
身分異動時の ・身分:会計年度任用初期研修医師 ・給与:沖縄県会計年度任用職員の職の設置、給与、勤務条件等に関する規程に準 ・ 動務日数:1 週間あたり38時間45分(フルタイム) 5日/週 ・ 有給休暇:6 か月経過後の年次有給休暇日数10日 ・ 社会保険:健康保険、厚生年金保険、労働者災害補償保険、 *沖縄県会計年度任用職員の職の設置、給与、勤務条件等の関する規程の準ずる。								まず							
<u>身分異動時</u> の 当直の有無・詳組	∄	無													
研修医が利用できる 駐車場の有無		有													
その他 初期研修において当院での研修は1ヶ月という短い期間であるため、精神科の診断と治療における基本を習得してもらう。 ・外来、病棟実習を基本とし、指導医と診療にあたる。 ・作業療法活動、デイケアプログラムに参加、訪問看護を外来・訪問看護チームと一緒に行い、チーム医療を学ぶ。 ・機会がある時に鑑定の助手を行う。 ・外来実習は新患を優先的に診る。 ・各種の研修、講演会に参加する。															

与那原中央病院

						与	那原	中	央病	院						
住		所	与那	『原町字	字邦原	₹2905										駿二
ホー	ムペ	ージ	htt	ps://w	ww.ycb	.or.jp										-23
常	勤医	師	19名	7					指	導 医	医 数	2名				
研修	実施責	任者	山里	1 將消	Ė,				指	導	医	<u>山</u>	里 将-	一朗、	平良 -	一雄
年間夕	外来診 療	寮日数	294	日					一日	平均患	見者 数	326	名			
病	床	数	170)	床												
基本的	りな勤務	時間	平	互日 月・火・水・金 08:30~17:30 木 08:30~12:30				土日 土 08:30~12:30 、日					、日 1	休		
休診日]等		祝	1日			科・整形外科 臨床研修は		通常診療 慰霊の日 臨床研修は曜日通						ij	
יייייייייייייייייייייייייייייייייייייי	7 7		旧盆		通常診療 臨床研修は曜日通り			年末年始		内科: 救急診療、外科・整形外科: 救急診療〔当 臨床研修は12/31~1/3休み					番制〕	
	内	外	救急	麻酔	小児	産婦人	精神神	整 形 外	脳神経外	腎泌尿器	形成外	皮膚	耳鼻咽喉	眼	放射線	病理診断
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	外 科	科	科	科	科	科	科
研修 受入	0	\circ						A								
		6化管、	下 科器組 置ク名者度化波道ジ識 し一二三四部 当・科ん当きス、数実を内系ャ・当、:::: 院腎、で院、型平55績目視疾ン手院「奉患チ生	は臓人いは「の均,7)指鏡患ル技は患仕者一涯昭内工ま入福医在29胎し、なでな、者のさム教和科透す院旅療院名は循琉ど行ど常さ精ん医育	50 折。施討施日(、環大消なをにん呻の寮を年内等・設とで16世の・器病化っ学生ので権と実に分談・70で16世か科院器でぶ乗立、利分践・70で16世かの等系よご教場患を引し	・	内ど標 病り近りの数の一角にある。 内が標 病りのの物との一角にあると安立最でで・榜 床りのの物との一もは、まと安立最で診外し、のかが続けのでは、またのでは、またのでは、ないでは、ないでは、これでは、	寮科 ぶは外とえい極め芯、寮でこの安のを・・・ 客には外とえい極め、を のか立医全質関肛診 養急規135切、耳体呼 質つっ寮での関すり 頻135切、耳体呼 質かっそのに	見寮 病性入 9に VXF末 りตことで引外外 床期院門名し呼組シし 向足原提心なに整の 1.疾患科救な器でン上 をでをし医心	(形)連 回患者は1急が料い上で 図い行外携 復ら1.1急が料い上で 図い行車らのま、鏡 りたい科を「期在1.2整よ 内睡す下視」 だま	・図 リニ39形34天 技下 地けす が明り ハ医名97受・時又静手 域る。 け科な ビ療月 見入外門外瘤も 暑医 すす	では、 は で は で で で で で で で で で で で で で で で	・ム 1)を2名泌ニ・形、一交い 医歯医 を基)尿と外禁で感ま 療科療 有力・器・科煙旱神す 機	・を プラベ科コ質外層経の 関 歯重 、針入227では来、遮で 、 科点 地 接患 きお、大断、 福	と はいまでは、 これでは、 こ	4、寮 重ア55,975 ト23専4の 点ミッチ55,975 の専4の、広的のよいのでは、ないのは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない
	<u>晃動時</u> の 医の処遇		身分異	基動を 負	半う研修	8の場合	î、お問	い合え	つせくだ	どさい。						
	<u>動時</u> の)有無・		有													
	医が利用 国場の有	_	有													
その他	<u>t</u> ,															

第6章

地域医療 保健·医療行政 研修

共通研修カリキュラム

地域医療研修

☑ 必修科□ 病院で定めた必修科☑ 選択科

地域医療担当スタッフ	武村 克哉(救急部)
研修指導責任者	各協力施設における実施責任者

- 1)診療所では、診療所医師(指導医)が研修期間中の指導にあたる。
- 2)研修開始時に研修医と指導医が共に研修のゴールを確認し、研修医の学びたいこと、 指導者が研修医に期待することを明確にしておく。
- 3)診療所研修以外の研修では、各施設のプログラムに従い教育担当者が指導する。

研修方法	4週間の地域医療研修を行う。期間中に一般外来研修や在宅医療研修を行う。
	1) 一般的な疾患を有し、さまざまな背景をもつ患者を診察する。
	2) 診療に貢献するような役割を果たす。 例. 医療面接・身体診察とその記録、検査・治療計画の立案、訪問診療、診療情報提供書の作成など
	3)毎日の外来診療の終わりに診察内容について振り返り、 指導医からフィードバックを得る。
	4)研修の中間地点で、それまでの研修について指導医と共に振り返り、 後半の研修をどのように行うか話し合う。
	5) 研修終了時に、評価票により指導医から正式なフィードバックを受ける。 また、プログラムに対するフィードバックを行う。
	6)研修終了後、礼状・研修の記録・ポストアンケートを 総合臨床研修・教育センターに提出する。
研修先	へき地・離島または200床未満の施設 ※一覧は次ページ、詳細は「地域医療 保健・医療行政 研修施設 リファレンスガイド」を参照
	研修医は、研修希望施設を希望順に4施設挙げ、希望理由を総合臨床研修・教育センターに提出する。それを基に、地域医療研修先を決定する。
参考資料	プライマリ・ケア、家庭医療の診療所実習・研修の手引きPCFMネット編
	http://www.shonan.ne.jp/~uchiyama/tebki.html
	1

保健·医療行政研修

□ 必修科	
ロ 病院で定めた必修	钭
☑ 選択科	

選択科研修期間において、「地域医療研修」を担当している協力施設に加え、保健所や療養 所においても研修医の希望により研修することが可能である。

※施設の受入れ条件等の都合上、研修医の希望に沿えない可能性もあります。

地域医療/保健・医療行政研修 協力病院・協力施設

[地域医療研修]

- ・愛聖クリニック
- ・アドベンチストメディカルセンター
- ・伊江村立診療所
- · 稲福内科医院
- · 沖縄県立北部病院附属伊是名診療所
- · 沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属阿嘉診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属粟国診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属久高診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属北大東診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属南大東診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属渡名喜診療所
- · 沖縄県立宮古病院
- · 沖縄県立八重山病院
- · 沖縄県立八重山病院附属西表西部診療所
- · 沖縄県立八重山病院附属大原診療所
- · 沖縄県立八重山病院附属小浜診療所
- · 沖縄県立八重山病院附属波照間診療所
- ・沖縄南部療育医療センター
- ・沖永良部徳洲会病院
- ・かりまた内科医院
- ·公立久米島病院
- ・首里城下町クリニック
- すながわ内科クリニック
- ・名嘉村クリニック
- ・ファミリークリニックきたなかぐすく
- ・もとぶ野毛病院
- · 与那国町診療所

[保健・医療行政研修]

- ・オリブ山病院
- · 北中城若松病院
- ・国立療養所沖縄愛楽園
- ・ちゅうざん病院
- ・宮里病院
- 沖縄県北部保健所
- · 沖縄県中部保健所
- · 沖縄県南部保健所

※詳細は、令和8年度地域医療 保健・医療行政 研修施設リファレンスガイドを参照してください。 (令和8年9月頃配布予定)

共通研修カリキュラム

共通研修カリキュラムでは断片的になりがちな項目を総合的に学習することを目的に、定期開催のレクチャー、プライマリスキル、ケースカンファレンスを行います。共通研修カンファレンスへの参加は必須で、各診療科には研修医がカリキュラムに参加できるよう配慮することが求められています。

- ※研修医にとってよりよいレクチャーとなるように、要望等に応じて内容を適宜変更しています。
- ※月に2~3度、研修医によるケースカンファレンスを取り入れています。

<参考>令和7年度実施から抜粋(予定含む)

※ケースカンファレンスは令和6年度実施分

レクチャー

· ·)	
	内容	担当診療科
1	下血・血便・消化性潰瘍	第一内科
2	肺炎・抗菌薬の使い方	第一内科
3	気管支喘息・COPD	第一内科
4	胸痛	第三内科
5	心電図	第三内科
6	心不全	第三内科
7	脳血管障害	第三内科
8	小児救急	小児科
9	小児虐待	小児科
10	頭痛	脳神経外科
11	呼吸困難	臨床研修センター
12	救急外来での発熱対応	臨床研修センター
13	動脈血液ガス分析	臨床研修センター
14	貧血・DIC	第二内科
15	腎不全	第三内科
16	大動脈解離	第二外科
17	妊婦に対する薬剤の使い方	産科婦人科
18	女性の腹痛	産科婦人科
19	興奮・せん妄・抑うつ	精神科神経科
20	日常診療で出会うアレルギー	皮膚科
21	耳鼻科救急	耳鼻咽喉科
22	視力障害・眼科救急	眼科
23	糖尿病	第二内科
24	高血圧	第三内科
25	死亡診断書および異状死体について	法医学講座

シミュレーションスキル

]	1	外傷の初期診療	救急科
	2	ショック	救急科

教育CPC

1	ALS
2	多発性硬化症
3	結核
4	COPD

プライマリスキル

	内容	担当診療科			
1	シーネ固定・包帯法	整形外科			
2	腹部エコー	第一内科			
3	心エコー	第三内科			
4	除細動の使い方	救急科			
5	排尿困難・フォーリー留置	腎泌尿器外科			
6	縫合・結紮	第一外科・第二外科			
7	局所麻酔	麻酔科			
8	腰椎穿刺	第三内科・脳神経外科			
9	胸腔穿刺・胸腔ドレーン	第一内科			
10	血培の取り方	感染対策室			

ケースカンファレンス(令和6年度実施)

1	ケースカンファレンス&スライド作成のコツ
2	75歳男性 突然の失語・意識障害
3	様子がおかしい 36歳男性
4	徐々に進行する極度のるい痩
5	33歳男性 全身発疹
6	20歳女性 発熱が持続するCOVID-19
7	78歳女性 突然の半身麻痺+背部激痛
8	58歳男性 腰背部痛
9	13歳男児 発熱・前胸部痛
10	58歳男性 徐々に増悪する下肢脱力
11	右半身脱力発作を繰り返す中年女性
12	30歳女性 発熱・急性腹症
13	24歳男性 発熱を伴う右陰嚢痛
14	70歳男性 めまい
15	46歳女性 背部痛・嘔気
16	喘息発作で入院中の11歳男児 頭痛・活気不良
17	75歳女性 前日から続く悪心・嘔吐
18	高齢男性 発熱
19	86歳女性 嘔吐
20	69歳男性 めまい・複視・歩行困難
21	左下腹部痛

RyuMIC ロゴマークデザイン



「Ryu」の頭文字、「R」の中に「MIC」を配置した。
「R」の形は、人の和と鋭敏な感覚を象徴する。
緑は、沖縄の「若夏」の色彩で「RyuMIC」の豊かな発展を象徴する。

令和8年度 琉球大学病院 初期臨床研修プログラム

RyuMICプログラムA RyuMICプログラムB RyuMICプログラムC

令和7年11月発行

琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 〒903-0215 沖縄県宜野湾市字喜友名1076番地 TEL: 098-894-1391、1392 FA X: 098-894-1388

H P: https://sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/center/

Mail: kensyu@acs.u-ryukyu.ac.jp





Ryukyu Medical Interactive Collaboration (RyuMIC)